科目名	教育学	開講時期	1年次後期	講義担当者	恒吉　紀寿
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

必要時指示します。

科目のねらい

人間形成における教育の意義を学ぶ。社会教育が果たす役割や意義を考え、地域社会における教育活動、現代教育に関わる基礎的な知識を理解する。

授業目標

1. 人間の成長・発達における教育の意義、社会における教育の役割を理解し 説明ができる。
2. 家庭・学校・地域社会における教育の役割を理解し、説明ができる。
3. 教育の制度・目的・内容・方法等、教育に関わる基礎的な知識を身につけ、説明ができる。

DPとの関連

教育学は1年後期に開講され30時間15コマの授業です。教育に関わる基礎的な知識を学ぶことや教育と人間の成長・発達の関係を通し、ディプロマ・ポリシー(DP）の関係を築く力(倫理）、前に踏み出す力(アクション）、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に講義を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	オリエンテーション（講義内容、学習目標、留意事項等）	講義	・教育の目的は、究極的には「人間である」といわれる意味を「教育基本法」第１条を読み、それを参考にして理解する。 ・社会教育に興味を持たせる。 ・人間が健康を回復するための健康教育の意義を理解する。 ・学生への学習方法、自主的な学習への動機づけが図れる成人教育としての内容を看護学と結びつける。 ・学生個人の学習計画の立案を図り、自己の目標と実施内容を定期的に評価させる。 ・評価の内容は、「基礎看護学」の看護過程の展開、「成人看護学」の指導技術に連携して教授する。 ・家庭教育と学校教育の違いを理解し、家族との関係性を考える。 ・障害者の教育は小児看護学、精神看護学とも関係し、障害児や障害者の教育の場や方法について見学実習にもある地域の施設からの講義とも関連させて学ばせる。
2	人間の成長・発達と教育の意義1	講義	
3	人間の成長・発達と教育の意義2	講義	
4	教育の分類　ー　さまざまな教育　1	講義	
5	教育の分類　ー　さまざまな教育　2	講義	
6	教育の目的と目標	講義	
7	生涯学習と教育の機会均等原則	講義	
8	教育を受ける権利と義務教育	講義	
9	義務教育の仕組み	講義	
10	学校教育・社会教育・家庭教育　ー　それぞれの役割と機能1	講義	
11	学校教育・社会教育・家庭教育　ー　それぞれの役割と機能2	講義	
12	公教育の中立性原則	講義	
13	幼児教育・保育と子育て支援　1	講義	
14	幼児教育・保育と子育て支援　2	講義	
15	まとめ	講義	

受講上の注意	授業中はノートやメモをたくさんとってください。 復習は毎回必ず行うようにしてください。授業中にとったノートやメモを整理するという復習の仕方がお勧めです。頼りになるのは教科書でなく自分のノートです。	**参考文献**	授業中に紹介
使用するテキスト	系統看護学講座　基礎分野　教育学　（医学書院）		
評価方法	試験、授業参加状況、課題レポートなど総合的に評価		

科目名	論理学	開講時期	1年次後期	講義担当者	清水　満
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

毎回、配布される演習プリントで、しっかり復習して下さい。

科目のねらい

人間を対象とする看護の場面において問題解決に必要な倫理的思考の基礎を身につけ、正しい思考の形式と法則を学び、人間や物事に対する見方、考え方の筋道を立てていく。また文章の読み方、書き方の基本を学習し、そして思考、倫理的な文章表現力を身につけることを目的とする。

授業目標

1. 論理学の法則や思考について演習を適宜用い、実践的な応用力が身につくようにする。
2. 日常の言語における論理を意識する態度を身につける。
3. 科学的思考に必要な演繹能力を身につける。
4. 論理的な文章、レポート、報告書などを書く能力を身につける。

DPとの関連

論理学は1年後期に開講され30時間15コマの授業です。科学的思考に必要な知識を学ぶことや論理的な文章を書くことを通し、ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、前に踏み出す力(アクション)、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に講義します。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	論理学へのイントロダクション	講義	・この講義では例題を出し、例題に対する正解率を競わせるものではなく、思考の形式や法則が理解できるよう演習を用いて教授する ・思考過程と意思を伝えることを学ぶため、例題を示し考え方を説明した後、論題や問題を個人、グループで解答を考えさせた後、解説させる ・講義だけではなく論文を読み、要点をまとめる ・レポートの形式について学習する ・文章を基に看護実践が、具体的に表現しているかなど批判的に考える学習をする
2	接続の倫理	講義	
3	接続の構造分析 議論とつながり	講義・演習	
4	論証と導出 論証の構造と評価	講義・演習	
5	否定とド・モルガンの法則 「すべて」と「存在する」	講義・演習	
6	条件構造 全称文と存在文	講義・演習	
7	ド・モルガンの法則と逆・裏・対偶	講義・演習	
8	推論の技術 逆・裏・対偶の復習	講義・演習	
9	記号論理学への入門	講義・演習	
10	論文の書き方 消去法・背理法	講義・演習	
11	論文を書く（1）	講義・演習	
12	論文を書く 現実への適用（1）　接続とパラグラフ	講義・演習	
13	論文を書く 現実への適用（2）　推論と構成	講義・演習	
14	論文を書く 現実への適用（3）　反論	講義・演習	
15	まとめと復習	講義 まとめ	

受講上の注意	演習問題をするときは、真剣に取り組み、自分の解答に修正すべき点があれば、授業後に修正する。 テキストは講義で話されたことの確認、整理、まとめで使うとよい。	**参考文献**	野矢茂樹「入門　論理学」中公新書 中内　伸光「ろんりの練習帳」 共立出版
使用するテキスト	毎回演習問題を含めた資料を配布		
評価方法	試験，授業参加状況、課題レポートなど総合的に評価		

科目名	情報科学	開講時期	1年次前期	講義担当者	高橋　圭一
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

本講義では、コンピューターやその基礎となる情報および看護や医療との関係について解説します。特に、看護学と情報、情報処理との関わり、情報の電子化の意義と生じる問題などについて理解を深めます。また、コンピューターの基本的な操作について演習を行い、一般的に利用されている文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトウェアに関する演習を通して、今後の履修科目で必要となる基本的な利用技術を修得します。

科目のねらい

看護学と情報、情報処理との関わり、情報の電子化の意義と生じる問題について理解を深める。コンピューターや情報システムのしくみを理解し、正しく活用するために必要な知識と技術を学び、さらに情報集計や統計の処理・分析方法を理解し、看護実践や看護研究において活用できる基礎的能力を養う。

授業目標

1. コンピューターの基本操作が習得できる。
2. 情報の電子化の意義と生じる問題について理解できる。
3. 文書作成や表計算、プレゼンテーション資料作成の演習で基本利用技術を習得できる。

DPとの関連

1年生の前期から始まる講義です。電子カルテが主流となってきている医療現場において、情報システムの理解やコンピューターの操作、また情報の管理については重要事項となります。
コンピューター操作の実践をとおして、ディプロマ・ポリシー(DP)である関係を築く力(倫理)、チームで働く力（協働）に関連づけられるよう講義します。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	情報とは データ　情報　知識 情報の特性　ICTとその活用	講義・演習	・情報とはどのように定義されているのか、情報、情報量、エントロピー、システムなどの基本的概念を教授する ・情報は、法的守秘義務とともに倫理的責務があることを理解させる ・コンピューターの基本操作を教授する ・コンピューターと法に関することや電子化の進展による効率性と危険性について論考する能力を身につける ・文章作成では、看護記録の作成方法を教授する ・エクセルはアンケート集計、図・表作成を教授する ・パワーポイントなどプレゼンテーションに必要な技術を学習する ・看護研究については、演習で情報の検索方法を教授する
2 3	情報倫理と個人情報保護 コンピューターに関する基礎知、種類、構成要素、ファイルシステム インターネットに関する基礎知識と注意点、 インターネットのしくみ、メール、ソーシャルメディアリスクと自衛 インターネット上で役立つ情報へのアクセス	講義 演習	
4 5	情報処理 文献検索 データ検索と利用	講義 演習	
6 7 8	文字情報の整理 MS-Wordを用いた文書作成 導入則と除去則 さまざまな文書スタイル 表・罫線　レポートの書き方	講義 演習	
9 10 11	統計解析 MS-Excelの基本操作 MS-Excelを用いた表計算 ワークシート関数　グラフ	講義 演習	
12 13 14	MS-PowerPointを用いたプレゼンテーション MS-PowerPointの基本操作 MS-PowerPointを用いた発表資料作成 MS-PowerPointを用いた発表会 看護研究と情報システム	講義 演習	
15	まとめ	講義	

受講上の注意	本講義ではコンピューターを使用して2～3年で必要となるソフトウェアの基本的な操作方法を学びます。 コンピューターが苦手な方は空き時間などに復習して苦手なままにせず確実に身につけるようにしてください。	参考文献	配布資料
使用するテキスト	系統看護学講座　別巻　看護情報学　（医学書院）		
評価方法	試験70点・課題30点　　PC使用しての実技含む　授業参加状況など		

科目名	社会学	開講時期	1年次前期	講義担当者	中村　晋介
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	無

事前学習内容

毎回、配布される演習プリントをまとめて保存し、見直しながら活用してください。

科目のねらい

現代の日本社会が抱えている問題点を知ることで、「社会人」となった後に「社会問題」に対して積極的に目を向け、課題を克服していく姿勢や態度を習得する。また「社会」に目を向け、「社会学」の発想を理解するとともに「社会学」という学問の存在意義について認識する。

授業目標

1. 「社会」とは何か、なぜ「社会」について考える必要があるのか理解できる。
2. 看護学を学ぶ学生が「社会学」が研究してきたさまざまな内容について関心をもつことができる。
3. 家族・地域・職場・現代における「社会」の役割について理解できる。
4. 医療及び看護を取り巻く社会について理解できる。
5. 現代社会における看護の課題や展望が理解できる。

DPとの関連

一年次前期に開講される講義です。青年期の学生にとって、現在の社会状況をまずは知り、社会について考えることは社会人としての常識を得る機会になります。また、広い視野をもち看護者としての知識を交え人を捉えることも可能になります。ディプロマポリシー1. 関係を築く力、2. 考え抜く力3. 前に踏み出す力、4. チームで働く力、5. 探究する力の基本になる講義とします。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 社会学の基礎概念 社会学を学ぶ意義 「社会」とは　「社会」の重要性	講義	・現代の医療サービスと、医療従事者の課題を考える基礎となる「人間と社会」について、社会的な考え方を取り上げる ・自分と親族関係にある人々の間柄を、親族との関係や家族内のルールを学ぶ ・人間は、特定の地域社会の中で生まれ、育ち、働き生活していることを理解する ・成長発達を遂げる環境としての社会を考える ・現代の職業と職場集団の一般状況をとりあげ、さらにその一部として看護を含む医療職と医療集団の特徴を考える ・自分たちが医療をどのように考えているのかまとめる。 ・医療・看護を取り巻く社会を理解するため、国内だけでなく、世界的現状を新聞や雑誌から把握し、社会の動きを自己のテーマをもつことができる。
2	2. 少子高齢社会の諸問題 「社会」と高齢者 安心して暮らせる社会を考える	講義	
3	独居高齢者の生活 入院や保証人との関係　高齢者の医療問題 高齢者と社会問題	講義・GW	
4	3. 現代日本における家族 「社会学」からみた家族とは	講義・GW	
5	「社会」と子ども 保育園、待機児童と地域の取り組み	講義	
6	4. 医療のもたらす社会的影響 非婚社会の到来	講義	
7	「社会」と医療 ハンセン病について	講義	
8	5. 医療・看護と社会の関係 社会政策　社会保障　まとめ	講義	

受講上の注意	・現代の医療サービスと、医療従事者の課題を考える基礎となる「人間と社会」について、社会的な考え方を取りあげる ・自分と親族関係にある人々の間柄を、親族との関係や家族内のルールを学ぶ ・人間は、特定の地域社会の中で生まれ、育ち、働き生活していることを理解する	**参考文献**	
使用するテキスト	講師配布　資料		
評価方法	試験（課題レポート提出）　その他　授業参加状況、課題など総合的に評価		

科目名	地域と社会	開講時期	1年次前期	講義担当者	恒吉　紀寿
		単位数	1単位		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	無

事前学習内容

学んだことが活かせるよう配布された授業プリントをもとに復習をしっかりして次回の授業に臨むことが望ましい。

科目のねらい

学校周辺（北九州市）学生の身近にある人々の暮らしから看護を学ぶために、暮らしの基盤としての学校周辺、地域の環境や特性がわかる。

授業目標

1．地域の生活が暮らしに影響を与えていることを知る。
2．学校周辺の地域の環境と特性を知る。
3．地域で健康を支えるシステムやネットワークを知る。

DPとの関連

地域と社会は1年前期に開講され15時間8コマの授業です。地域で活躍している大学講師の講義・演習を通し、地域の環境や特性を理解します。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力(倫理)、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に講義をします。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	北九州市とは 1）北九州市とはどんなところ　2）地理・歴史・政治・政策 3）人口関連統計	講義	・自分たちの暮らしている地域や学校周辺の地域の環境や暮らしのシステムを教授する ・まちづくりの特徴を学ぶ ・学校が存在する地域の医療の動向を学ぶことで受診する患者さんへの理解へつなげる ・地域包括ケアを学ぶ前にコミュニティに対する教授をして理解度を高める ・地域と区切って考えるだけでなく社会や世界の医療の傾向なども知り、視野を広げた中からもう一度地域を考える ・災害の多い日本にとって災害時のシステムの構築など地域の特徴を教授する
2	小倉南区とは 1）小倉南区とはどんなところ　2）地理・歴史・政治・政策 3）人口関連統計	講義	
3	北九州市の環境とは 1）まちづくりの目標　2）人づくり　暮らしづくり　産業づくり 3）北九州市環境未来都市について	講義	
4	北九州市の医療と福祉　1）北九州市の市民の健康を考える 2）北九州市の市民の福祉を考える 3）小倉南区の区民の健康を考える 4）小倉南区の区民の福祉を考える	講義	
5	コミュニティとは　1）地域と集団と家族、個人の関係性を知る 2）小倉南区にある医療機関や福祉機関 3）それぞれの機関の特徴と役割を調べる 4）地域包括ケアが必要な理由とは	講義・GW	
6	北九州市の災害対策について 1）災害とは何か　2）北九州市で起こりやすい災害について 3）災害対策の原則（環境）　4）地域保健福祉の対応を知る 5）日頃の備え	講義	
7	まとめ 1回目の講義から6回目の講義から地域の特性や環境、健康に関わる内容の全体的なまとめ	講義	
8			
受講上の注意	気づきや疑問等は授業後のレスポンスカードで受け付けます。	参考文献	
使用するテキスト	講師資料　配布		
評価方法	試験、授業参加状況、課題レポートなど総合的に評価		

科目名	哲学	開講時期	1年次前期	講義担当者	清水　満
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

前回の講義で指定した参考文献を読む。

科目のねらい

近代看護学の基礎を気づいたフローレンス・ナイチンゲールは優れた思想家でもあった。またその土台には、西欧のディアコネス、ホスピタラーという伝統があった。
病をもつ者、心身の痛みに苦しむ者へよりそう看護の伝統を、臨床哲学の視点から、客観化し、看護師になるにあたっての哲学的立場を形成する。

授業目標

1. 哲学とは何かを理解し、人間観・世界観としての哲学と現代の医療のあり方とのかかわりを理解する。
2. 「人間として生きること」、「よく生きる」の意味を理解し、実践につなげることができる。
3. 人間性と専門性に基づいた「やさしさ」、「おもいやり」を強調するケアが理解できる。

DPとの関連

本科目では、人間のこころと身体について考え、人間を全人的に捉えながらいかに生き死を迎えるかを、現代の情勢を交えながら学んでいく。ディプロマポリシーの1．関係を築く力、2．考え抜く力、5．探究する力を身につける講義をします。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	人間論としての哲学　　自己と他者の相互承認	講義	・相互承認論を学び、現代看護学のケア理論をより深める。
2	ケアの哲学　メイヤロフに学ぶ	講義	
3	ケアの実践（1）パッチ・アダムス	講義	・優れたケアの実践をしている者、クリニックの様子を映像で見る。
4	ケアの実践（2）かねはら小児科	講義	
5	有機的生命論（1）　カントの目的論	講義	・医学では否定的にしか見られない細菌・ウィルスがヒトの免疫力促進などに寄与していること、地球の生態系を守っていることを最新の細菌学、遺伝生物学を使い実証する。
6	有機的生命論（2）　細菌・ウィルスとの共生	講義	
7	障碍学入門	講義	
8	医学にある優生学的傾向の批判	講義	・ケアの対象の高齢者、障碍者、医療的ケア児、精神障碍者などについてすぐれた実践をもとに学ぶ。
9	出生前検査、旧優生保護法問題	講義	
10	高齢者のケア　「よりあい」の実践	講義	
11	訪問看護の哲学	講義	
12	２人のフランチェスコに見る看護	講義	
13	精神障碍者のケア　バザーリアとのぞえ総合心療病院の実践	講義	
14	子どもの貧困とケア	講義	
15	旅の哲学	講義	

受講上の注意	看護とは哲学的実践です。	**使用教材**	プリントを配布。
使用するテキスト	プリントを配布。		
評価方法	試験、授業参加状況、課題レポートなど総合的に評価		

科目名	心理学	開講時期	1年次前期	講義担当者	中島　俊介
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

テキストは熟読し授業に参加することが望ましい。

科目のねらい

今日においての心理学は、実生活の応用と人間の全体性への解明の中核科目としての期待が高まってきている、つまり「人間科学としての心理学」が求められている。そこでこの講義では人間の心のありようを生涯発達の観点から学ぶことで、自分の人生を深め、生活を創造し、より幸福な今を作り出して生きることを目的とする。

授業目標

1. 心理学がどのような学問であるか、その歴史や研究法から理解する
2. 人の心理的な発達を生涯発達の視点から説明できる
3. 人の活動を支える欲求とその正しい処し方について説明できる
4. 人の特性を表す性格や知能のさまざまな捉え方を説明できる
5. 心の問題に働きかける心の健康法や心理療法の基礎的知識を説明できる

DPとの関連

心理学は1年前期に開講され30時間15コマの授業です。講義・演習（グループワーク)を通し、人の心理的な発達を生涯発達の視点から捉えられるよう教授します。ディプロマ・ポリシー(DP）の関係を築く力(倫理）、考え抜く力(シンキング）、チームで働く力(協働）、探求する力(成長）に関連づけられていることを念頭に講義します。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	心理学とは何か 1）オリエンテーション　評価方法	講義	・心理学を学ぶ目的を明確にする ・「基礎看護学」「精神看護学」の基礎となる教科であることから積み重ねの必要性を教授する ・学習に影響する条件を挙げ、学習心理学の立場から考え学習の能率・効果を上げるための方法を考えさせる ・自己理解をするため自己意識の発達について考察する ・集団の心理は「精神看護学概論」人間と集団の基礎となる ・実習においても集団で行動するためその心理は重要である ・発達心理学は各専門分野の看護学の基礎となるため理論をふまえ教授する
2	心理学と人生 1）生涯発達心理学の重要性	講義	
3	人間の一生と発達 1）発達課題とライフサイクル理論	講義	
4	人生初期の心理学 1）胎児の能力　2）乳児の発達課題	講義	
5	幼児の心理 1）自律・しつけ・積極性の発達課題	講義	
6	学童期の心理 1）勤勉性　2）人格とは　3）人格理論	講義	
7	思春期の心理 1）心の危機とその対処法	講義	
8	青年の心理 1）同一性の確立と拡散	講義	
9	適応と不適応① 1）同一性の障がい	講義	
10	適応と不適応② 1）感情の心理学　2）感情のマネジメント	講義	
11	若い成人期の心理 1）親密性の課題　2）性と人生	講義・GW	
12	成人期の心理学 1）人生の目的　2）生きがいと人生	講義・GW	
13	老いと死の心理学 1）高齢者の心理	講義	
14	今後の心理学 1）その可能性と展望	講義	
15	まとめ	講義	

受講上の注意	講義各時間の内容理解度を知りたいので率直な感想を毎時間、自主的に教師に伝えて欲しい。 その方法については授業中に案内・表示する。 ノートに「書く」ことで記憶が刺激され気持ちが前向きになる。 ノートの取り方を各自工夫して欲しい。	**参考文献**	
使用するテキスト	「こころと人生」中島俊介偏・著　2017　ナカニシヤ出版		
評価方法	試験、授業参加状況、課題レポートなど総合的に評価		

科目名	生命倫理学	開講時期	1年次前期	講義担当者	野見山 待子
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

授業時間前は前回の授業の内容を自分のノートや配布プリントで確認する。

科目のねらい

生命科学や医学・医療技術の進歩が目覚ましい現代の複雑な医療状況の中で、看護者として自ら考え・判断する者となるために、倫理的諸問題の学習と理解を通じて、自らの倫理的判断の基礎を修得する。

授業目標

1. 生命倫理学で扱われる基本概念を理解し、説明することができる。
2. 生命倫理に関わる諸問題を、授業で学習した知識をもとに検討できる。
3. 看護師に必要な倫理とは何かを考え、それを言葉にすることができる。
4. 医療現場で遭遇する問題にどう対処するべきかを倫理的に考えることができる。

DPとの関連

生命倫理学は1年前期に開講され30時間15コマの授業です。講義内のシミュレーションや思考実験を通し、倫理的側面から医療や看護を捉えられるよう教授します。ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、考え抜く力(シンキング)、探求する力(成長)に関連づけられていることを念頭に講義します。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 生命倫理の誕生 生命倫理の流れ	講義	・生命倫理に関する多くの問題を上げて考えさせる。 ・生命科学の発展によって生じる医療問題について「哲学」と連動して教授する ・「看護学」とのつながりを教授し倫理的側面から医療を捉えられるよう教授する ・テーマ毎に自分の考え、感じたことをリアクションシートやコメントシートなどを活用し自分の講義ノートを作ることで活用する。 ・「死の受容」とはどのようなものか理解を深め「やすらかな最期を迎える」ための看護の必要性を考える ・医療と倫理についてインフォームド・コンセントなどテーマをもとにグループで学習し発表する ・「医療概論」「関係法規」「医療安全」と連動して教授するため確認の復習を大切にする。
2	看護の倫理	講義	
3	現代の医療倫理	講義	
4	1.「生」をめぐって 生命の始まり	講義	
5	出生をめぐる倫理問題	講義	
6	1.「死」をめぐって 「死」の定義と「脳死問題」	講義	
7	「安楽死」と「尊厳死」と「ホスピス」	講義	
8	「高齢者福祉」を考える	講義	
9	1. 看護と生命倫理 キュアとケア	講義	
10	看護職	講義	
11	1. 生命倫理の制度化 インフォームド・コンセントとは	講義	
12	告知問題	講義	
13	看護とインフォームド・コンセント	講義	
14	法律からみたインフォームド・コンセント	講義	
15	まとめ	講義	

受講上の注意	講義中のシュミレーションや思考実験を通して、自分自身の中にわいてくる生や死に関する思いや感情と出会いながら、医療従事者としてのあり方について自分なりに探していってほしい。 また、分からないところは質問するなどして、自筆の講義ノートを作ること。自分が理解できているかどうか自分のノートや配布プリントで確認の復習を。	**参考文献**	『エシックスセンス 倫理学の目を開け』新名 隆史・林 大悟編 ナカニシヤ出版
使用するテキスト	『生命倫理への招待』塩野 寛・清水 惠子著 南山堂 改訂5版		
評価方法	授業参加状況（リアクションやコメントシート含む）20%、 課題等10% 試験70%		

科目名	人間関係論	開講時期	1年次通年	講義担当者	木村　太一
		単位数	2		
		時間数	45時間（23回）	実務経験	無

事前学習内容

テキストは事前に熟読しておくことが望ましい。

科目のねらい

看護実践を行う際に必要な人間関係を形成する基礎的知識を理解し、コミュニケーション技術、カウンセリング理論及びその技法を学ぶ。また、家族の人間関係や援助の基本姿勢を理解する。人間関係論では、看護師として必要な人間関係に関する基礎理論、コミュニケーションスキルに重点をおいて学習する。体験学習や実践事例などを用いて他者との協力や受容が促進されるようなアクティブラーニングを行う。

授業目標

1. 対人援助職に必要な人間関係の基礎知識について理解できる。
2. コミュニケーションの理論を学び、演習をとおして理解できる。
3. 人間関係を心理学的な視点から考え、カウンセリング理論や技法について理解できる。
4. 家族の人間関係や援助の基本的知識を習得する。

DPとの関連

人間関係論は1年通年に開講され45時間23コマの授業です。講義・演習(ロールプレイング等)を通し、自己のコミュニケーションの傾向や円滑な人間関係構築の技法を理解するためディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(協働)、探求する力(成長)に関連づけられていることを念頭に講義します。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	人間関係の基礎知識 1. 人間の存在と人間関係・関係性 1）人間関係論とは	講義	・「教育学」では人間形成を「心理学」では自己理解・他社理解を学習していることと連携し教授する ・人間存在と関係性について教授する
2			
3	2. 社会的相互利用と社会的役割 1）対人関係の成立　2）社会的役割 3）態度と対人行動　4）集団と個人	講義	
4			
5	3. コミュニケーションとは 人間関係をつくる理論と技法 1）コミュニケーションとは　2）対人コミュニケーション 3）援助的コミュニケーション　4）ICTの発達とコミュニケーション	講義	・学生自身のコミュニケーションの傾向を把握し態度変容できる
6			
7			
8	4. 人間関係・関係性の研究と応用 1）コーチング 2）アサーティブコミュニケーション	講義	・ロールプレイングの進め方、場面設定を明確にして教授する
9			
10	5. 演習・体験① 人間関係・関係性の向上へのスキル	講義 演習	・カウンセリングの原理や理論を教授し、事例をとおしてカウンセリング技法で展開し考察させる
11			
12	6. 演習・体験② 自己理解・他者理解の促進	講義 演習	・面接技法を使い信頼関係を築く一連の流れを演習で理解させる ・体験学習での基本姿勢を教授する
13			
14	7. 人間の発達・成長と可能性	講義	
15	看護における人間関係 1. 保健医療チームの人間関係	講義	
16	2. 闘病生活を支える人間関係	講義	
17	3. 終末期と人間関係① 患者の理解とケア	講義・GW	
18			
19	4. 終末期と人間関係② 家族の理解とケア	講義・GW	・終末期看護は成人看護学と連動して教授する ・家族については「社会学」「看護学」と連動して教授する
20			
21	5. 家族の人間関係と看護師のかかわり	講義	
22	6. ソーシャルサポートをめぐる人間関係	講義	・家族関係の問題をグループで提起し、家族関係理論を用いて家族関係の構築を検討する
23	まとめ	講義	

受講上の注意	毎回授業の最後に「質問・感想カード」を書いてもらいますので、わからないことや印象に残ったことを書いてください。グループワークでは、積極的に参加して様々な体験や気づきが得られることを期待します。	参考文献	「グループ」という方法 武井 麻子（医学書院）
使用するテキスト	系統看護学講座　基礎分野　人間関係論（医学書院）		
評価方法	試験、授業参加状況、課題レポートなど総合的に評価		

科目名	英語	開講時期	1年次通年	講義担当者	角　和久
		単位数	2		
		時間数	60時間（30回）	実務経験	無

事前学習内容

予習は全く必要ありません。必要なことはすべて授業でカバーします。その分復習に充分な時間を割いてください。

科目のねらい

英語を運用する際の基礎となる事項を習得し、writingの能力、正しく英語を発音する習慣を培うことを目的とする。さらに、実際に看護の現場などで必要とされる「会話暗唱例文」を使いspeakingの反復練習とともに、能力の定着と現代情報社会で必要とされるscanning（必要な情報を素早く読み取る）能力の向上、readingを通してSDGsの認知度を上げることlisteningを通して健康、地域医療、感染症予防などへの理解を深めることを目的とする。

授業目標

1. 英語を運用する際の基礎となる事項を習得する。
2. writingの能力を養い、正しく英語を発音する習慣を培う。
3. 依頼、伝言、報告、指示などを「会話暗唱例文」を使いspeakingの反復練習と前期の講義で身につけた能力の定着をはかる。
4. readingを通してSDGsの認知度を上げること、listeningを通して健康、地域医療、感染症予防などへの理解を深める。

DPとの関連

英語は1年後期に開講され30時間15コマの授業です。相互参加のアプローチで行われる講義を通し、英語を運用する基礎的能力の習得を目指します。ディプロマ・ポリシー(DP)の考え抜く力(シンキング)、前に踏み出す力(アクション)、探求する力(成長)に関連づけられていることを念頭に講義します。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	英語らしさ	講義	・学生が英会話したいと思い、楽しめるように教授する
2	発音記号／Peter Piperのお話／日本人の「座ってください」	講義・演習	
3	native speakersの「ここ座ってもいいですか」／カタカナ英語／アクセント	講義・演習	
4	文型	講義	・専門用語を実際に使用できるようにする
5	英文の要ー自動詞・他動詞	講義	
6	日本人には不可解な英語の名詞	講義	・専門用語は覚えやすいようにまとめておくように教授する
7	英語生活力検定10級～7級	講義・演習	
8	分詞は形容詞ー基本的な使い方	講義・演習	・英語生活力検定などから考え、自分の力も知る
9	分詞は形容詞ー身の回りにあふれる分詞	講義・演習	
10	メガフェップスダし～!	講義	・看護場面での会話をグループで学習し、ロールプレイを行う
11	関係詞ー丁稚奉公編	講義	
12	関係詞ーお弟子さん編	講義・演習	
13	関係詞ー親方編	講義・演習	
14	関係詞ー総合演習	講義・演習	・医療用語と看護師と患者のやりとり（患者への質問あるいは指示・説明の仕方）を学習する
15	前期試験	講義	
16	情報処理　①	講義	
17	情報処理　②	講義	・「医療と看護の総合英語」医療に関する英文を読みながら、医療英語の再確認、重要表現の習得、病院で話される易しい会話の練習をする。
18	SDGs ①	講義	
19	SDGs ②	講義	
20	SDGs ③	講義	
21	SDGs ④	講義	
22	SDGs ⑤	講義	
23	SDGs ⑥	講義	
24	看護の英語　①	講義・演習	
25	看護の英語　②	講義・演習	
26	看護の英語　③	講義・演習	
27	看護の英語　④	講義・演習	
28	看護の英語　⑤	講義・演習	
29	看護の英語　⑥	講義・演習	
30	看護の英語　⑦	講義・演習	

受講上の注意	高校までの受験を主たる目標とした授業形態とはまったく異なる、相互参加のアプローチで講義を進めていきます。わからないことがあればその場で講義をストップし、どんどん質問して構いません。	**参考文献**	
使用するテキスト	1. 明日を生きる　こころとからだ　A Healthy Life for Today and Tomorrow（朝日出版社） 2. SDGs 英語長文Core ーThink, Share, Actー（三省堂）		
評価方法	授業への参加状況、課題レポート、講義途中での小試験、試験など総合的に評価		

科目名	運動と健康	開講時期	1年次前期	講義担当者	非常勤講師
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

集団スポーツなどの身体活動が行えるよう自己の体調管理と準備を行っておくこと。

科目のねらい

レクリエーションや集団スポーツなどの身体活動を通して、生涯スポーツとしてのスキルの向上と自分の健康管理に役立つ　知識について理解する。
さらに、人間関係作りやコミュニケーション能力を養う。

授業目標

1. 生涯スポーツとしてのスキルを習得できる
2. 身体活動を通して、自己開示・自己概念について理解できる
3. 健康の保持増進に必要な能力を獲得できる

DPとの関連

運動と健康は1年後期に開講され30時間15コマの授業です。健康管理のための知識を学ぶことや集団スポーツでの身体活動を通し自己の健康管理能力を獲得することを目指します。
ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、前に踏み出す力(アクション)、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に講義します。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	運動と健康（1）　【自分自身の健康観について考える】	講義	・スポーツと健康の関係性を理解し「看護学」における運動療法と連動して教授する ・自己の健康状態を査定する ・学生は動きやすい服装で受講する ・基礎体力や必要運動量などを成長発達別に理解することができる ・健康状態を維持、向上するための運動プログラムを作成し計画内容を提出する ・バレーボールなど球技を行う ・実技を通してリーダー・メンバーの役割について考えさせる ・対象に合わせたレクリエーションを企画、運営する ・対象は発達段階や健康レベルの違う事例内容とし、各グループ別に実演する ・安全面に配慮した内容とする ・最終的に健康と運動を考える機会としてまとめる
2	運動と体力　　【必要な体力について考える】	講義	
3	レクリエーションの実践（1） 【カラダを使ったグループゲームを通して自分自身を知る】	講義・演習	
4	レクリエーションの実践（2） 【カラダを使ったグループゲームを通して他人を理解する】	講義・演習	
5	運動と健康（2）　【運動の楽しみ方について考える】	講義・演習	
6	ストレッチングの理論と実践	講義・演習	
7	エクササイズ（1）　【ソフトバレーボール】	講義・演習	
8	エクササイズ（2）　【インディアカ】	講義・演習	
9	運動と健康（3）　【運動処方について考える】	講義・演習	
10	エクササイズ（3） 【集団スポーツを通してチームワークについて考える】	講義・演習・GW	
11	エクササイズ（4） 【集団スポーツを通してチームワークについて考える】	講義・演習・GW	
12	エクササイズ（5） 【集団スポーツを通してチームワークについて考える】	講義・演習・GW	
13	エクササイズ（6） 【集団スポーツを通してチームワークについて考える】	講義・演習・GW	
14	運動と健康（4） 【疲労と休養のバランスについて考える】	講義	
15	まとめ	講義	

受講上の注意	本授業では、講義と実技を通して、健康の保持増進のために必要な体力づくりはもちろんのこと、看護職として必要な、疲労対策やストレス対処能力の向上といったセルフケアについても、実践できる能力を身につける。さらに、グループゲームやグループワークを通して、自己概念や自己開示といった人間関係の構築やコミュニケーション能力に必要な能力についても考える。	**参考文献**	
使用するテキスト	特になし（必要に応じてプリントを配布）		
評価方法	授業への取り組み・参加状況（70%）　授業の小レポート（30%）と総合的に評価		

科目名	解剖学総論	開講時期	1年次前期	講義担当者	小林　繁
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	無

事前学習内容

各講義後に、臓器の位置関係、形状の特徴の理解を促すため、事前にワークブックを使用して学習を課す。

科目のねらい

正常な人体各部の構造・機能を学び、自分自身のからだを知るための学問で、医学・看護学の基礎であり、ヒトの健康、ヒトのからだや病気を体系的に理解する。その理解に基づいた診断により患者の治療、看護が行われる。これを学習するにあたり、人体を構成している細胞・組織・器官・器官系の構造と機能を学ぶことは、専門職教育においても最重要な内容であり、各論の礎となる質を十分に確保し、臨床的な視点へと結び付けられることを目的とする。

授業目標

1. 人体の構造を学ぶための共通の言葉、解剖学用語を理解できる。
2. 人体を構成する細胞、組織、器官、器官系の定義を理解できる。
3. 人間の生命維持、日常生活行動に必要な器官の構造を理解できる。

DPとの関連

解剖学　総論は1年次後期に開講され15時間8コマの授業です。人体モデルや模型を活用した講義を通して、清浄な人体各部の構造・機能を学びます。ディプロマ・ポリシー（DP）の考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）、に関連づけられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	Ⅰ　解剖学とは 1）人体の構造と機能についてなにをどのように学ぶか 2）解剖学と生理学の歴史と現在	講義	・解剖学との他の科目内容と関連していることや看護の科学的根拠となることを強調し、学習の動機付けをはかる ・解剖学各論、生理学Ⅰ・Ⅱや生化学、疾病と治療Ⅰ～Ⅵとのつながりの土台となるため定着が必要な講義であることの意味づけを伝える ・すべての講義時、人体モデルや模型を教室内に準備することで学生がイメージしやすいように使用する ・各講義後に、臓器の位置関係、形状の特徴の理解を促すため、事前にワークブックを使用して学習を課す ・毎回講義後に確認用紙を配布し、学生の質問を受けやすくする ・ここでの知識の習得は看護教員が基礎看護技術と連動させる ・構造については成人をベースに教授し、小児など他の看護学との関連を認識させる
2	Ⅱ　解剖生理学のための基礎知識 形からみた人体 1）体表から触知する人体の構造 2）人体の構造と区分 3）人体の部位と器官 4）方向と位置を示す用語 Ⅲ　素材から見た人体 1）人体とはどのようなものか 2）細胞の構造 3）細胞を構成する物質とエネルギーの生成 4）細胞膜の構造と機能 5）細胞の増殖と染色体 6）分化した細胞がつくる組織 Ⅳ　機能からみた人体 1）動物機能と植物機能の器官系 2）体液とホメオスタシス	講義	
3		講義	
4	Ⅴ　身体の支持と運動 1）骨格とはどのようなものか　　5）上肢の骨格と筋 2）骨の連結　　6）下肢の骨格と筋 3）骨格筋　　7）頭頸部の骨格と筋 4）体幹の骨格と筋　　8）筋の収縮	講義	
5			
6			
7			
8	解剖学とは	まとめ	

受講上の注意	すべての講義で、学生がイメージしやすいよう人体モデルや模型を教室内に準備する。また、毎回講義後に確認用紙を配布し、学生の質問を受ける。	**参考文献**	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 （メディカ出版）
使用するテキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　　解剖生理学（医学書院） 事前課題（ワークブック）		
評価方法	試験、授業参加状況、終了後レポートを総合的に評価		

科目名	解剖学各論	開講時期	1年次通年	講義担当者	引地　尚子
		単位数	2		
		時間数	45時間（23回）	実務経験	無

事前学習内容

教科書の該当ページを精読し、疑問点を抽出する。

科目のねらい

解剖学は、正常な人体各部の構造・機能を学び、自分自身のからだを知るための学問である。また、医学・看護学の基礎であり、ヒトの健康、ヒトのからだや疾病を体系的に理解する。そしてその理解に基づいた診断により患者の治療や看護が行われるため、解剖学を学習するにあたり、人体の器官系に従って学習する。各論では、人間の生命を維持する働きを行う器官の形態と構造の基礎知識を習得することを目的とする。

授業目標

1．人体を構成する細胞、組織、器官、器官系を理解できる
2．人間の生命維持、日常生活行動に必要な器官の構造を理解できる
3．看護に必要な人体の構造と機能を関連づけて学ぶ

DPとの関連

解剖学　各論は1年次に開講され45時間23コマの授業です。
人間の生命を維持する働きを行う器官の形態と構造の基礎知識を習得します。ディプロマ・ポリシー（DP）の考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）関連づけられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	循環器系1（心臓）	講義	・「解剖学」と他の科目内容と関連していることや看護の科学的根拠となることを強調し、学習の動機付けをはかる ・解剖学各論、生理学Ⅰ・Ⅱや生化学、疾病と治療Ⅰ～Ⅵとのつながりの土台となるため定着が必要な講義であることの意味づけを伝える ・すべての講義時、人体モデルや模型を教室内に準備することで学生がイメージしやすいように使用する ・構造については成人をベースに教授し、小児など他の看護学との関連を認識させる
2	循環器系2（動脈）	講義	
3	循環器系3（静脈）	講義	
4	循環器系4（リンパ系）	講義	
5	呼吸器系	講義	
6	消化器系1（口腔）	講義	
7	消化器系2（咽頭・食道・胃）	講義	
8	消化器系3（小腸・大腸）	講義	
9	消化器系4（肝臓・膵臓）	講義	
10	泌尿器系	講義	
11	内分泌系1（下垂体）	講義	
12	内分泌系2（甲状腺等）	講義	
13	女性生殖器	講義	
14	男性生殖器	講義	
15	神経系総論	講義	
16	中枢神経系1（大脳）	講義	
17	中枢神経系2（間脳・脳幹・小脳・脊髄）	講義	
18	末梢神経系1（脳神経）	講義	
19	末梢神経系2（脊髄神経）	講義	
20	末梢神経系3（自律神経系・下行性伝導路）	講義	
21	感覚器系1（視覚器・平衡聴覚器）	講義	
22	感覚器系2（嗅覚器・味覚器・皮膚・上行性伝導路）	講義	
23	人体発生	講義	

受講上の注意	毎回配布する講義プリントに復習用小テストを掲載するので、講義後に解くこと。次回講義の冒頭に答え合わせと解説を行う。	**参考文献**	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学（医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学		
評価方法	講義参加状況、レポート、試験を含め総合的に評価		

科目名	生理学Ⅰ	開講時期	1年次前期	講義担当者	河岸　重則
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

生理学とは生命維持システムであり、私たちの生命の営みでもあります。正常な人体の仕組みについて学習するため、生物基礎や解剖学で習得してきた知識を思い出しながら受講しましょう。また、人体の仕組みや営みに興味をもって、学習に取り組んでいきましょう。

科目のねらい

生理学は生体の機能を研究する学問であり、生体の機能は大きく2種類に分けられる。植物機能と動物機能で、生理学Ⅰでは個体の維持を司る生命維持システムである植物機能（循環器・呼吸器・消火器・泌尿器）について学ぶ。また、疾病の成り立ちや診断、患者の治療・看護について正しく理解するためには、まず正常な人体についての知識が必要となるため、人体の各器官系の機能について基礎的知識を習得する。

授業目標

1. 正常な人体についての知識を習得する。
2. 人間の生命維持について理解できる。
3. 個体の維持を司る生命維持システムである植物機能（呼吸器・循環器・消化器・泌尿器）について理解する。

DPとの関連

生理学Ⅰは1年前期に開講される、30時間15コマの授業です。解剖学と並行して受講していき、人体のなか営まれている生命の維持に必要な仕組みについて学習します。ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、考え抜く力(シンキング)、探求する力(成長)に関連づけられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 生理学とは 細胞を構成する物質とエネルギーの生成 植物機能と動物機能の器官系 体液、ホメオスターシス	講義	・「解剖学」との関係を考えて教授する ・生理学と臨床における疾患、診断、治療や検査結果との関連を学習の動機づけをはかる ・学生がいつでもフィードバックできるように小テストを実施予定 ・機能やはたらきで強調したい内容はノートに図示させ、ワークブックと併用して理解を深める ・人体の生命徴候や働きと連動して考えられるように基礎看護技術のバイタルサイン測定、食事、嚥下のメカニズムや働き、排泄機能と連動させて看護学でも教授する ・機能については成人をベースに教授し、小児や高齢者など機能が成長発達段階、未分化なもの、加齢減少等の内容は他の看護学でもベースの生理学をふまえ、重ねて教授する
2	2. 血液の機能：血液の組成、生理機能、 血球、血漿、血液凝固、血液型	講義	
3			
4			
5	3. 細胞膜の組成と機能、膜電位 脳神経系の機能①：中枢神経、末梢神経	講義	
6	4. 血液循環：心臓の興奮、心電図、心臓の収縮、 血圧とその調節、血液循環、浮腫、リンパ	講義	
7			
8			
9	5. 呼吸の機能：内・外呼吸、 呼吸運動とその調節、呼吸気量、 ガスの交換と運搬、肺の血流 発声と構音	講義	
10			
11	6. 細胞の化学成分	講義	
12	7. 栄養の消化と吸収：口・咽頭・食道 腹部消化管・肝臓・胆嚢の機能	講義	
13			
14			
15	8. 腎臓の生理機能、糸球体、 尿細管、傍糸球体装置、腎臓の生理活性物質、 排尿路、体液の調節	講義	

受講上の注意	用語を正確に覚えること。	**参考文献**	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学　メディカ出版
使用するテキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学（医学書院）		
評価方法	授業参加状況、小テスト・試験　など総合的に評価		

科目名	生理学Ⅱ	開講時期	1年次後期	講義担当者	河岸　重則
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

解剖学や生理学Ⅰで学習してきたことを思いだしながら、受講しましょう。
また、人体の仕組みや営みに興味をもって、学習に取り組んでいきましょう。

科目のねらい

生理学は生体の機能を研究する学問であり、生体の機能は大きく2種類に分けられる。植物機能と動物機能で、生理学Ⅱでは個体の維持を司る生命維持システムである植物機能（自律神経・内分泌・免疫）と環境適応を司る運動・調節システムである動物機能（筋系・中枢神経系・末梢神経系・感覚系）について学ぶ。また、疾病の成り立ちや診断、患者の治療・看護について正しく理解するためには、まず正常な人体についての知識が必要となるため、人体の各器官系の機能について基礎的知識を習得する。

授業目標

1. 正常な人体についての知識を習得する。
2. 人間の生命維持について理解できる。
3. 環境適応を司る運動・調節システムである動物機能（筋系・中枢神経系・末梢神経系・感覚系）と植物機能の一部（免疫系）について理解する。

DPとの関連

生理学Ⅰは1年後期に開講される、30時間15コマの授業です。生理学Ⅰに引き続き受講し、人体のなか営まれている生命の維持に必要な仕組みについて学習します。ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、考え抜く力(シンキング)、探求する力(成長)に関連づけられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 自律神経による内蔵機能の調節： 交感神経、副交感神経	講義	・解剖学との関係を考えて教授する
2	2. 内分泌系による内臓機能の調節： ホルモンの化学構造・作用機序 内分泌腺（視床下部・下垂体・甲状腺・膵臓・副腎・性腺・その他）と各ホルモン、ホルモン分泌の調整 ホルモンによる内臓機能調節の実際	講義	・生理学と臨床における疾患、診断、治療や検査結果との関連を学習の動機づけをはかる ・学生がいつでもフィードバックできるように小テストを実施予定 ・機能やはたらきで強調したい内容はノートに図示させ、ワークブックと併用して理解を深める ・人体の生命徴候や働きと連動して考えられるように基礎看護技術のバイタルサイン測定、食事、嚥下のメカニズムや働き、排泄機能と連動させて看護教員も教授 ・機能については成人をベースに教授し、小児や高齢者など機能が成長発達段階、未分化なもの、加齢減少等の内容はほかの看護学でもベースの生理学をふまえ、重ねて教授する ・可能な限り学生自身の体を媒体とし体内のメカニズムを意識化させる
3			
4			
5			
6	3. 筋の収縮：骨格筋の収縮機構 骨格筋の収縮の種類、不随筋の収縮	講義	
7	4. 脳・神経系の機能②： ニューロン、グリア細胞、シナプス伝達、脊髄・脳幹・小脳・間脳・大脳の機能、脳脊髄神経、高次機能（睡眠・記憶・本能行動・情動行動）、運動機能、感覚機能（体性感覚・視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚・疼痛）	講義	
8			
9			
10			
11	5. 生体防御の機構： 非特異的防御機構（皮膚・粘膜・炎症）、 特異的防御機構（体性免疫・抗体・細胞性免疫・アレルギー）、代謝と運動（エネルギー代謝・運動とエネルギー）体温とその調節：熱の出納、体温変動、体温調節中枢、発熱、高体温、低体温	講義	
12			
13			
14			
15	まとめ	講義	

受講上の注意	生理学用語を正確に覚えること。	**参考文献**	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学　メディカ出版
使用するテキスト	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　（医学書院）		
評価方法	授業参加状況、課題レポート、中間試験・終講試験など		

科目名	生化学	開講時期	1年次前期	講義担当者	下田　妙子
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

必要時伝達します。

科目のねらい

人体の生理機能を化学的に学び、私たちのからだを構成している物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸、無機質、ビタミン）の構造、性質、機能を理解する。また、体内で行われている物質代謝（主に糖質、脂質、タンパク質の各代謝）と酵素の役割を理解する。遺伝情報とその発言のしくみを理解し、人体を構成する化学物質の性状・分布・代謝についての基礎的知識を習得する。

授業目標

1. 人体を構成する物質とその代謝、生命維持のために体内でおこっている諸現象を生化学的に理解できる。
2. 生化学で得た知識を看護の実践に結びつけることができる。理解することができる。

DPとの関連

生化学は1年後期に開講され30時間15コマの授業です。視聴覚教材や図表を活用することで
人体を構成する化学物質の性状・分布・代謝についての基礎的知識を習得します。
ディプロマ・ポリシー（DP）の考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に関連づけられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	代謝とは。一日の生活と同化・異化のバランス	講義	・入学前に高等学校で生物や科学を履修していない学生もいるため、確認する ・講義開始前までに学生に配布資料等で事前学習時間を設ける ⇒3回目　ミニテスト① ・「解剖学」「生理学」「栄養学」「疾病と治療」のつながりを考慮し、学生がいつでもフィードバックできる内容とする ⇒6回目　ミニテスト② ・複雑な構造図などは、理解が可能になるよう視覚教材や図表を活用する ・消化・吸収では「栄養学」と連動し、消化・吸収後の分子レベルでの物質の変化の流れを教授する ⇒9回目　ミニテスト③ ・代謝の異常では糖尿病や脂質異常症を取りあげ、生化学的な知見を交えながら解説する ・先天性代謝異常では異常酵素について教授し、「小児看護学」でも教授する
2	細胞の構造と機能、糖類の種類	講義	
3	脂質の構成、脂肪酸の構造	講義	
4	アミノ酸の分類とタンパク質の構造	講義	
5	核酸とヌクレオチド	講義	
6	ビタミンの種類とその働き、欠乏症	講義	
7	酵素の役割、性質、臨床診断との関連	講義	
8	糖質の消化と吸収、糖質代謝、血糖調節、糖尿病	講義	
9	脂質代謝の役割と概要、脂質の消化と吸収 コレステロールの代謝	講義	
10	リン脂質とエイコサノイド、脂質異常症	講義	
11	タンパク質とアミノ酸の消化と吸収、代謝 核酸・ヌクレオチドの代謝、抗癌薬の作用	講義	
12	エネルギー代謝の統合と制御 遺伝情報	講義	
13	遺伝情報と発現・先天性代謝異常 遺伝情報の異常から生じる病気	講義	
14	遺伝疾患の症状と栄養管理	講義	
15	遺伝疾患「副腎白質ジストロフィー」患者の発症から 治療法発見の映画から看護師として姿勢を学ぶ	講義・DVD	

受講上の注意	人体のダイナミックな動きを理解することは、患者の疾患管理に有用です。楽しみながら学びましょう。 教科書に沿って講義は行いますが、必要に応じてパワーポイントやプリントなども使用します。	**参考文献**	系統看護学講座　専門基礎分野　生化学（医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　人体の構造と機能②　臨床生化学　メディカ出版		
評価方法	授業参加状況、課題レポート、ミニテスト（30%）　試験（70%）など総合的に評価		

科目名	栄養学	開講時期	1年次後期	講義担当者	小倉医療センター 管理栄養士
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：小倉医療センター管理栄養士

事前学習内容

学んだことが活かせるようテキスト及び配布資料をもとに復習をしっかりして次回の授業に臨むことが望ましい。

科目のねらい

栄養学は人々の栄養状態をいかに改善するかに始まり、生活習慣病の予防・改善に貢献してきた。さらに超高齢社会を迎えた日本では、健康長寿社会を目指しており、人々の生活のニーズや生活の質を高めるためには欠くことのできない内容である。これからも人々の健康を支援していく医療専門職としては、いつの時代にあっても適用可能な基礎知識を求められるため、健康の維持・増進や治療に関わる栄養、食生活、食事療法などを合わせて医療にたずさわる看護師、専門職としての知識を習得する。

授業目標

1. 食生活が健康に及ぼす影響や人体での栄養素の働きなどについて理解できる。
2. 臨床の場における健康教育や栄養管理・食事療法について理解し疾患との関連をつかむことができる。

DPとの関連

栄養学は1年後期に開講され30時間15コマの授業です。管理栄養士による講義を受け臨床の場における栄養管理や食事療法について理解します。ディプロマ・ポリシー(DP)の考え抜く力(シンキング)、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1 2	1. 臨床栄養学の基礎知識 1）意義と看護 2）栄養とは 3）栄養アセスメント	講義	・「生理学」「生化学」とのつながりを考慮し、学生がいつでもフィードバックできる内容とする ・「基礎看護技術」の身体計測・食事援助技術を想起 ・以前測定した自分の身体計測値・健診結果とアセスメントを行う ・体格指数は成人・小児の特徴別に教授する ・消化・吸収では「生化学」と連動し、消化・吸収後の分子レベルでの物質の変化の流れを教授する ・1日のエネルギー消費の概算を生活動作にあわせ算出 ・ライフステージ別の栄養マネジメントは各看護学と連動して教授する ・小倉医療センターでの病院食の種類をもとに、食事の特徴を教授する ・治療食の量や種類は食品サンプルなどを活用し視覚的に捉えられるよう工夫する ・食事療法については、糖尿病・腎臓病・肝臓病・心臓病・たんぱく質コントロール食・脂質コントロール食・ナトリウムコントロールなど献立作成を演習する
3 4	2. 食品成分と食事摂取基準 1）食品成分とエネルギー 2）日本人の食事摂取基準	講義	
5 6 7	3. 日常生活と栄養 1）食文化 2）運動と栄養 3）人生各期における健康生活と栄養	講義	
8 9	4. 療養生活と栄養 1）治療による回復を促すための食事と栄養管理 2）栄養成分別のコントロール食 3）嚥下障害のある人のための食事 4）経口摂取できない人のための栄養管理	講義	
10 11 12	5. 疾患別の栄養食事療法 1）消化器系疾患 2）内分泌・代謝疾患 3）循環器系疾患 4）腎疾患	講義	
13 14 15	6. 栄養食事指導の実際 1）健康増進のための栄養食事指導 2）食習慣改善のための栄養食事指導 7. まとめ	講義	

受講上の注意	「生理学」「生化学」「各看護学」等とつながりのある教科です。つながりのある教科も意識しながら学ぶと学びやすく楽しい授業になると思います。	**参考文献**	系統看護学講座 専門基礎分野　栄養学 （医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち④　臨床栄養学　メディカ出版		
評価方法	授業参加状況、試験（100点）、課題など総合的に評価		

科目名	病理学	開講時期	1年次後期	講義担当者	矢田　直美
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：大分大学医学部口腔外科にて臨床実施

事前学習内容

必要時課題を指示します

科目のねらい

病理学とは生体に起こる病的な状態（病気・疾病）の本体を追求する学問であり、病気を起こす原因、それぞれの病気で生じて来る変化、その経過、その結果たどる転帰を一本の流れとしてとらえる学問である。この講義では、病気を総論的な視点から及び各臓器において把握することに主眼を置いて理解できるようにする。

授業目標

1. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徴候のメカニズム、分類別対応や対処の原則が理解できる。
2. 代表的な疾患の症状・徴候の原因・病態生理や診断、治療法の概要が理解できる。

DPとの関連

病理学は1年後期に開講され30時間15コマの授業です。人体の構造と機能や疾病の成り立ちと回復の促進の薬理学・微生物学との関連を意識して学習できるように教授します。ディプロマ・ポリシー（DP）の考え抜く力（シンキング）探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 人間の身体における本来の働きとその乱れ 2. 体液の異常　　3. 血行障害	講義	・解剖学、生理学、生化学、栄養学とのつながりを考慮し、学生がいつでもフィードバックできるようにする ・疾病と治療、成人看護学の教育内容、看護実践との関連を意識させる ・症状は、看護学と連動して教授する ・感染症は「微生物学」と連動して教授する ・代表的な疾患ごとに、病態生理・臨床症状・検査所見がつながるように教授する ・代表的な症状ごとに発生機序を説明し、原因疾患を教授する ・疾患ごとの患者の自覚症状、他覚症状の発生メカニズムに重点をおく ・病態生理を理解することで治療方法や薬剤の必要性にもつなげられるよう教授する ・治療に関しては基本的なことを教授し、「疾病と治療」で詳細は医師、看護師、助産師などから講義と関連できるように教員も教授内容を把握する
2	4. 炎症と修復 5. 免疫及び免疫疾患	講義	
3	6. 感染 7. 変性・壊死・萎縮・老化	講義	
4	8. 腫瘍と過形成 9. 先天異常	講義	
5	10. 代謝異常	講義	
6	11. 呼吸器系 咳嗽・喀痰・喀血　呼吸困難	講義	
7	12. 循環器系 胸痛　不整脈　チアノーゼ　ショック	講義	
8	13. 消化器系 腹痛　肥満　やせ　食欲不振　嚥下障害 嘔気・嘔吐　吐血・下血　便秘　下痢　腹部膨満 腹水　黄疸　貧血　出血傾向　リンパ節腫脹 皮膚掻痒　レイノー現象	講義	
9			
10	14. 脳・神経系 意識障害　頭痛　けいれん　てんかん　運動麻痺 運動麻痺　運動失調　歩行障害　嗄声　睡眠障害	講義	
11			
12	15. 感覚器系 めまい　視力障害　難聴　耳鳴り　味覚障害 嗅覚障害	講義	
13	16. 運動器系 しびれ　腰痛　関節症状	講義	
14	17. 内分泌系 発熱・低体温　浮腫　脱水　倦怠感	講義	
15	18. 腎・泌尿器系 排尿異常　尿量異常　尿所見異常	講義	

受講上の注意	経過の中で確認テストや課題があります。	**参考文献**	系統看護学講座　専門基礎分野　病理学（医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち①　病態生理学　メディカ出版		
評価方法	試験、授業参加状況、課題レポートなど総合的に評価		

科目名	薬理学	開講時期	1年次後期	講義担当者	原田　桂作
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	薬剤師

事前学習内容

必要時伝えます。

科目のねらい

疾患の治療において、薬は重要な役割を果たしている。誰もがなんらかの理由で薬のお世話になった経験もあるはずで、身近なものではあるが誤った使用方法をとると命の危険が伴うものであることなど、正しい理解が必要になる。薬の役割と薬が人体に作用するしくみなどの基礎的知識を学習し、また、薬物療法に用いられる薬剤の投与方法及び使用量と薬理効果の関係、使用上の注意点など安全に看護を提供するための基礎的知識を習得する。

授業目標

1. 医薬品の分類と薬物療法の目的が理解できる。
2. 医薬品が作用する原理と作用に影響を与える要因が理解できる。
3. 医薬品を適正かつ安全に使用するための注意事項が理解できる。
4. 主な疾病、症状に使用する薬剤の作用機序、特徴が理解できる。

DPとの関連

薬理学は1年後期に開講され30時間15コマの授業です。薬剤師による講義を受け臨床の場における薬物療法について理解します。ディプロマ・ポリシー（DP）の考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	医薬品総論 1）医薬品とは　2）医薬品の作用原理とその影響 3）医薬品の適正な使用に向けて	講義	
2 3	主な生活習慣病に使用する薬 1）生活習慣病とは　2）生活習慣病と薬物療法 3）生活習慣病に随伴する循環器障害と薬物療法 4）生活習慣病に随伴する脳血管障害と薬物療法	講義	
4 5	がん・痛みに使用する薬 1）がんの薬物療法　①化学療法　②内分泌療法 ③分子標的療法　④その他の抗がん薬 ⑤急性骨髄性白血病治療薬 ⑥乳がんの治療薬　⑦投与の実際 抗がん薬の有害作用とその対策	講義	
6 7	脳・中枢神経系疾患で使用する薬 1）中枢神経系の働きと薬　2）抗てんかん薬 3）パーキンソン病治療薬　4）アルツハイマー型認知症治療薬 5）精神疾患に用いる薬	講義	
8	感染症に使用する薬 1）感染症 2）細菌感染症 3）ウイルス感染症4）真菌感染症 5）寄生虫感染症　6）消毒薬7）予防接種薬	講義	
9	救命救急時に使用する薬　1）医薬品投与に関連する緊急事態 ①ショック　②過量投与　③医薬品に関連した中毒の治療に 使用する薬　④救急カートに必要な薬　⑤麻酔時に使用する薬 ⑥血液製剤	講義	
10 11	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬 1）気管支喘息と薬物療法　2）呼吸器疾患に使用する薬 3）関節リウマチと薬物療法　4）全身性エリテマトーデスと薬物療法	講義	
12	消化器系疾患に使用する薬　1）消化性潰瘍治療薬　2）健胃消化薬 3）制吐薬、鎮吐薬 4）胃腸機能調整薬　5）瀉下薬、止瀉薬 6）腸疾患治療薬 7）肝臓・胆嚢・膵臓の疾患に使用する薬	講義	
13	その他の症状に使用する薬 1）代謝機能障害　痛風　高尿酸血症治療薬　2）内分泌障害	講義	
14	血液・造血器障害 貧血治療薬　血栓治療薬　播種性血管内凝固症候群治療薬 血友病治療薬　特発性血小板減少症紫斑病治療薬 腎機能障害　腎炎　腎不全治療薬	講義	
15	運動機能障害　骨粗鬆症治療薬 性・生殖機能障害　泌尿器・生殖腺　機能障害　皮膚障害 視覚障害　水分・電解質・カロリー不足　痛みに使用する薬	講義	
受講上の注意	1年生の前期から学ぶ内容としては、少々難しいところもあるかもしれません。薬のことを少しでも身近に感じてもらえたらと思います。普段の薬についての疑問点なども含め、分からないところは質問して下さい。	**参考文献**	系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学（医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち②　臨床薬理学　メディカ出版		
評価方法	授業参加状況、試験での評価		

科目名	微生物学	開講時期	1年次後期	講義担当者	前田　憲成
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	無

事前学習内容

毎回しっかり復習をして受講してください。

科目のねらい

微生物とは「目に見えない小さな生物」であり、このミクロな生物が引き起こす感染症は医療看護の現場で実際に数多く発生している。この授業では、微生物とは何なのか、どのように微生物は宿主（ヒト）に感染するのか、どのような性質をもっているのかについての各論を教示する。さらに、実際に医療現場で起こっている術後の感染症や創傷の感染症、カテーテル関連の感染症、針刺し事故、薬物耐性と微生物がどのように関わっているのかについて理解できるようにする。

授業目標

1. 生体防御機構と微生物の構造、増殖、抵抗性、生体に及ぼす症状が理解できる。
2. 感染症の発生機序、その治療法および予防法が理解できる。
3. 免疫システムの特徴を把握し、相互作用と免疫反応について理解できる。
4. 院内感染など実際の医療現場で起こりうる感染症について理解できる。

DPとの関連

微生物学は1年後期に開講され30時間15コマの授業です。1年次に履修する人体の構造と機能の「解剖学」「生理学」が土台となり、2年次に履修する疾病の成り立ちと回復の促進の「疾病と治療」につながるようことを意識できるように教授します。ディプロマ・ポリシー（DP）の考え抜く力（シンキング）探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	微生物と医動物の違い 1）細菌の性質 （1）形態と特徴　（2）培養環境と栄養 2）真菌の性質 3）原虫の性質 4）ウイルスの性質	講義	・「解剖学」「生理学」での学習をフィードバックさせ、グループワークの活用する ・写真やスライドなど視覚的教材を工夫し、清潔に対する意識を高める ・生体防御機構での予防接種は「小児看護学」と連動して教授する ・培養などに使用する物品は可能な限り提示し、学生が興味をもてる教材を選定 ・感染症の治療は「薬理学」「疾病と治療」と連動して教授する ・臨床微生物学では感染症のメカニズム・予防方法など臨床で起こりやすい事例をもとに教授する ・薬物耐性菌は最近の院内感染事例を説明し学生に理解させる
2			
3			
4	宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体 1）呼吸器感染症、結核 2）消化器系感染症 3）肝炎 4）尿路感染症、性感染症 5）皮膚・粘膜の感染症 6）ウイルス感染症とリケッチア感染症 7）脳・神経系感染症	講義	
5			
6			
7	宿主の因子が影響する感染症と病原体 1）人獣共通・寄生虫感染症 2）小児感染症・母子感染、高齢者感染 3）日和見感染症、移植、創傷感染症 4）カテーテル関連感染症 5）薬剤耐性菌	講義	
8			
9			
10	感染症の分類と感染防御機構、感染・発症予防 1）感染症の主な分類と感染経路 2）感染防御のしくみ 3）ワクチン接種、滅菌・消毒	講義	
11			
12			
13	感染症の検査・治療 1）感染症の徴候と症状、検査手法 2）抗生物質などの抗感染症薬	講義	
14			
15	まとめ	講義	

受講上の注意		参考文献	系統看護学講座　専門基礎分野　微生物学（医学書院）

使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち③　臨床微生物・医動物　メディカ出版
評価方法	試験、授業参加状況、課題レポートなど総合的に評価

科目名	医学概論	開講時期	1年次後期	講義担当者	小倉医療センター 医　師
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：小倉医療センター医師

事前学習内容

学んだことが活かせるようテキストをもとに復習をしっかりして次回の授業に臨むことが望ましい。

科目のねらい

生と死、健康を見つめ、医療と看護の原点を考えるために、人類の歴史における医療の変遷を学ぶ。また現在のわが国の医療サービスの体制の現状と問題点を探る。高度で専門化し、進歩を続ける医療が「ひと」や「社会」に及ぼした影響をみつめる一方、急速に進行する高齢化などの社会の変化が医療に与える影響も考える。理解できる。そして、現在の医療に求められているチーム医療やケアの実践における看護師の重要性を学ぶ。

授業目標

1. 生と死や、健康というものを見つめ、看護の原点が理解できる。
2. 人類の歴史における医療の変遷、発達を知り、現在の医療の成り立ちを理解できる。
3. 現在のわが国の医療サービスの体制の現状と問題点が理解できる。
4. 高度に専門化、進歩をとげた医療が「ひと」や「社会」に及ぼした影響が理解できる。
5. 社会の変化と共に、人々の意識も変化し、医療に影響を与えたことが理解できる。
6. 現在の医療に求められている方向性が理解できる。

DPとの関連

医学概論は1年後期に開講され15時間8コマの授業です。臨床医の講義を受けることで
人類の歴史における医療の変遷から現在の医療に求められる方向性を理解していきます。
ディプロマ・ポリシー（DP)の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に
関連付けられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 生きることと死ぬこと 1）生命を尊ぶ心 2）健やかに生きる 3）老いてこそ人生 4）おだやかに死ぬこと　終末期を考える	講義	・保健医療に携わることをめざすときに考えておくべき、医療や看護師の原点はどこにあるのか、生命とはなにか、健康とは、病気とは何かについて確認する。 ・保健医療を生活の視点から見ることによって、医療・看護サービスが、特殊な状況で一部の人々に提供されるのではなく、一人一人の暮らしと密接につながっていることを理解させる ・歴史的変遷から、医療と社会との関係、特に高度の医療技術が人々の生活にどのような影響をもたらし、これらの医療が人々にどのような貢献ができるのかを考えさせる ・最先端の医療の概要を学ぶこととともに、社会的弊害や倫理上のジレンマなどについても教授する ・医療を受ける患者の立場や倫理面から、医療や看護について教授する
2			
3	2. 医学と医療 1）医学の歴史に学ぶ 2）臨床医学とEBM	講義	
4	3. 保健・医療・介護 1）保険・医療・介護を取り巻く社会環境 2）社会保障制度 3）公衆衛生と保健 4）わが国の医療システム 5）救急医療・集中治療	講義	
5			
6	4. 医療と社会 1）医の倫理 2）医療安全 3）医薬品 4）最先端医療　医療情報	講義	
7	5. 医療経済学と医療政策 1）経済学を用いて医療を読みとく 2）転換を迫られる医療政策	講義	
8	6. まとめ	講義	

受講上の注意	最先端の医療を学ぶとともに医療を受ける患者の立場や倫理面から、医療や看護について考えていくので新聞記事やニュースなどの医療に関する内容に興味を持ち、情報を得る等しておいてください	**参考文献**	講義時に紹介します
使用するテキスト	系統看護学講座　医療概論　健康支援と社会保障制度①（医学書院）		
評価方法	授業参加状況、試験（100点）		

科目名	公衆衛生学	開講時期	1年次後期	講義担当者	竹原　直道
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：九州大学歯学部付属病院にて臨床実施

事前学習内容

特になし。

科目のねらい

何らかの健康問題に対して、個々の患者・被害者の個人的な問題として対処するのではなくある集団全体の問題としてとらえ、その集団における発生状況等を調査し、その結果に基づいて法律などを通じて対策を講じ、その健康問題の発生自体を予防しようとする営みが、公衆衛生の原点といえる。健康問題を把握するための方法である疫学や保健統計の基礎とそれらを実際にどう活用するかを学び、対象者の属性による公衆衛生上の活動や特徴、地域で生活する人々の疾病予防、健康の保持増進、健康障害の発生に関わる問題について、医学的、社会学的、疫学的、医療行政的視点から保健活動について理解する。

授業目標

1. 公衆衛生の基礎、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動について理解できる。
2. 社会と衛生に関する諸問題について、その概要を理解し説明できる。

DPとの関連

公衆衛生学は1年後期に開講され15時間8コマの授業です。人々の疾病予防、健康の保持増進、健康障害の発生に関わる問題について理解を深めていきます。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に関連付けられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 公衆衛生の歴史 2. 現在の公衆衛生システムと政策 国と地方自治体の役割 保健所・市町村保健センターの役割 民間や住民組織・専門職の役割	講義	・公衆衛生の概念と基本的な内容を理解させる ＊憲法第25条・第12条 ・環境・健康等を想起させ、特に生活環境の保全について理解させる ・疫学的方法の詳細については、「統計学」で学ぶ ・健康の概念や指標は「看護学」の基礎となるため確実に理解させる ・国民衛生の動向を用い最新のデータから平均寿命・有病率・罹患率など健康に関する指標を理解させる ・社会保障制度及び医療制度については「社会福祉」の学びを想起させる ・対象別公衆衛生の実践の詳細については各専門領域で学習する ・災害保健、健康危機管理については3年次「災害看護」で学ぶ ・自分自身の健康はもちろん、家族や職場の健康をつくり、地域での総合的な健康づくりを推進するため対策を考えさせる
2	3. 公衆衛生の理念・概念 ヘルスプロモーションの考え方 公衆衛生と政治経済学 健康格差と社会経済格差 ソーシャルキャピタル	講義	
3	4. 公衆衛生のものさし 集団の見方と健康指標　研究方法 リスクファクター　スクリーニング 公衆衛生活動における疫学 統計情報の収集と見方 5. 公衆衛生活動のプロセス 保健師の活動の特徴　家庭訪問の意義 健康診査　健康教育　健康相談 6. 日本人の健康と課題 健康づくり対策　生活習慣病　がん 7. 親子保健	講義	
4	8. 高齢者保健医療福祉 9. 歯科保健	講義	
5	10. 精神保健福祉 11. 難病対策	講義	
6	12. 健康危機管理と災害 13. 感染症対策 14. 学校保健	講義	
7	15. 産業保健 16. 環境保健	講義	
8	17. 国際保健	講義	

受講上の注意		**参考文献**	系統看護学講座 専門基礎分野　公衆衛生（医学書院） 国民衛生の動向（財団法人　厚生統計協会）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障②　公衆衛生		
評価方法	授業参加状況、課題レポート、試験など総合的に評価		

科目名	情報と医療	開講時期	1年次前期	講義担当者	西村　雅幸
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：診療情報管理士

事前学習内容

事前に教科書を読み、予習用プリントを仕上げ、授業に臨む

科目のねらい

看護としての専門性をより発揮するうえで「情報」とは何かを知り、医療における情報の「活かし方」と「まもり方」の両方を学ぶ。
患者にもっとも近いところで接する看護師は、そこから得られる様々な情報をもとに、患者や患者家族だけでなく、医療チームとコミュニケーションをとり、情報共有を図ることが重要となる。
「情報」の特性を学び、新しい情報を取り入れ、よりよい意志決定に結びつけ、看護の実践に活かせるようにする。

授業目標

1. 情報とは、医療における意思決定や看護の展開に重要なものであることを知る。
2. 情報の「活かし方」として、医療の現場で用いられる医療情報について理解し、どのように利用するか、また現場で得た医療情報をどのように記録するかを知る。また会計システムや予約システム、電子カルテシステムなどの病院情報システムの概要について知る。
3. 情報を取り扱ううえで遵守すべき情報倫理や診療情報の開示、個人情報の保護について理解する。

DPとの関連

情報と医療は1年前期に開講され15時間8コマの授業です。診療情報管理士による講義を通し、医療における情報の「活かし方」と「まもり方」を学びます。ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	情報とは 1）情報の特性　2）情報の認知と意思決定 情報化社会の成立 1）インターネット、ICTとは 2）情報化社会で求められること	講義	・不確実性を減らすものと言われる価値と期待を知る ・情報とはどのように定義されているのか、情報、情報量、バイアスやシステムなどの基本的概念を教授 ・誰でも情報が活用できるがリスクが伴うことへの理解 ・情報に翻弄される患者や家族がいるため、診療を受けるにあたり戸惑わない医療機関の対応の説明 ・医療保障制度（健康保険・後期高齢者・公費負担医療他）について仕組みを理解させる ・チーム医療とは多職種との連携の重要性を学ばせる ・さまざまなシステムがあることを知ることができる ・医療者と患者双方向のコミュニケーションの（非言語、文書等を含む）重要性を伝える ・看護職が扱う患者の情報は、法的守秘義務とともに倫理的責務があることを理解させる ・電子カルテに入力した情報は医療訴訟などの際、証拠となることを誤魔化したりすることが重大なこととなる
2	医療費・健康保険・介護保険について 1）受診から通院、入院や退院についての医療費全体の流れ 2）医療保険制度について 3）高齢者・妊産婦・障害者の医療制度 4）限度額適用認定などのしくみ　など	講義	
3	保健医療における情報 1）医療情報システム　2）医療情報の利用と倫理 3）エビデンス情報に基づいた保健医療 4）病院情報システムと記録の方法 ・オーダリングシステム　・医療過誤防止システム ・クリニカルパス・診断群分類（DPC） ・医療用画像管理システム（PACS）	講義	
4	情報倫理と医療倫理 患者の権利と情報 1）診療情報提供に関する指針 2）訴訟につながる可能性	講義	
5	看護職が扱う情報 1）医療における情報の記録 2）看護記録　電子カルテによる記録	講義	
6	情報伝達とコミュニケーション 1）医療情報の種類 2）医療におけるコミュニケーション	講義	
7	個人情報の保護 1）個人情報とは　2）医療従事者の義務 3）臨床実習における情報を守る	講義	
8	まとめ	講義	
受講上の注意	講義の進行上、予習プリントをして臨んでください。	参考文献	
使用するテキスト	系統看護学講座　別巻　看護情報学（医学書院） 配付資料		
評価方法	試験（100点） 授業参加状況、試験など総合的に評価		

科目名	家族看護論	開講時期	1年次後期	講義担当者	木下みゆき
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

特になし。

科目のねらい

家族看護学の発展の歴史を理解し、さまざまな視点から家族をとらえ家族の持つセルフケア能力を引き出す家族看護実践を行うための基礎的能力（地域・技術・態度）を養う。特に健康問題に関して、家族を1単位として捉え、家族が持てる力を発揮し、問題解決能力を高める援助方法を理解する。この科目では、家族および、家族関係についての理解を深め、家族への支援の方法を健康段階ごとに学び、さらに病と家族の苦悩について理解を深めることを目的とする。

授業目標

1. 家族の概念を理解し、家族・家族看護の定義や目的を説明できる。
2. 家族を援助するときの基本姿勢について理解できる。
3. 家族関係および家族の問題について討議し発表できる。
4. ジェノグラム・エコマップを基に、家族アセスメントモデルに基づいた家族構造・発達・機能のアセスメントができる。
5. 健康問題を持つ家族への看護の展開方法を理解できる。
6. 家族の苦悩の場面を演じることにより、家族個々の抱える苦悩について体感し、アプローチについて検討できる。

DPとの関連

家族看護論では、家族のエンパワーメントするアプローチを展開するために家族の全体像を捉え家族像を形成することが重要となる。残材の家族の姿を繋がりや時間軸の中で、そして多角的に捉えていく。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に関連付けられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	家族の基本概念 家族看護のニーズと目的	講義	
2	家族を理解するための基盤倫理、家族構造、発達・機能、 家族システム理論、家族アセスメント（ジェノグラム・エコマップ）	講義	・学生自身が自己の家族の発達課題を理解する
3	家族の発達理論、発達段階における課題	講義	・学生は能動的に情報収集し課題を発表できるようにまとめる
4	家族の多様性の背景 婚姻・非婚化・出生率の低下 パートナーシップの多様性・ジェンダー役割・高齢化	GW	
5			
6	さまざまな健康段階における家族看護の実際 （急性期・慢性期に関する）	発表	・ロールプレイ （次回の演習のガイダンス）
7	さまざまな健康段階における家族看護の実際 （終末期に関する）	講義	・発表資料作成含む
8	さまざまな健康段階における家族看護の実際 （高齢者の介護負担に関する）	講義	・発表は広い部屋で実施
9	健康問題を持つ家族の事例演習	GW	
10			
11			
12	健康問題を持つ家族の事例演習	発表・フィードバック	
13			
14	家族の多様性、現在家族の課題	講義	
15			

受講上の注意	積極的な意見交換を行い有意義な授業にしましょう	**参考文献**	1. 森山美知子　ファミリーナーシングプラクティス、家族看護の理論と実践、医学書院　2001 2. 小林奈美　グループワークで学ぶ家族看護論、医歯薬出版　2006 3. 鈴木和子・渡辺裕子　家族看護学理論と実践　第3版　日本看護協会出版会　2006
使用するテキスト	1. 上別府圭子　2018系統看護学講座　専門分野　家族看護学（医学書院）		
評価方法	客観試験：70%　　課題レポート：30%		

科目名	看護学概論	開講時期	1年次前期	講義担当者	財津　理枝
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

看護師になる礎となる重要な内容が多い講義内容であるため、事前に学習課題や自分の将来を考えた意見、理由づけのある発表などができるように学生個々の考えをまとめて課題に取り組んで、出席してください。

科目のねらい

「看護とはなにか」という看護の基本となる概念を学び、「看護とは」と探求し続ける姿勢を身につけ、看護の対象理解や看護倫理、看護教育、看護管理の基礎的な学習から進める。
看護専門職としての役割と機能について理解を深め、保健医療福祉チームにおいて調整者としての役割が発揮できるために必要な知識を学ぶ。また、看護職者の倫理、看護職者の教育、現代における保健・医療・福祉・看護の動向についても学ぶ。

授業目標

1. 看護の対象である人間を理解し、環境や健康の意味づけができる。
2. 「人間」「健康」「環境」「看護」の主要概念について理解する。
3. 看護及び看護職者の役割や責任について理解する。
4. 現在の日本人の健康状態や課題について理解する。
5. 看護とは何かを探求し続けるための考え方を身につける。

DPとの関連

この講義は1年前期から学ぶ内容で、関係を築く力（倫理観）、看護専門職として保健・医療・福祉のチームの中での看護師の役割を担えるようにチームで働く力（協働）、そして看護師を目指すことは生涯学習し続け、新しい医療の知識やその時代に応じた看護も追求できるように探究する力（成長）に関連させて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護への導入　看護とは　看護のと意義と本質　看護の役割	講義	看護に対するイメージとは
2	看護の対象とその理解　人間とは　個人・家族・コミュニティ	講義	
3	健康とウェルネス　セルフケアとは	講義	健康づくりから医療へ
4	ライフサイクルと健康	講義	受療行動と結びつける
5	看護における倫理と価値　看護倫理とは　ジレンマと課題	講義	
6	看護における倫理と価値　道徳的ジレンマ課題への対応	演習	講義をベースに学生の道徳観・倫理をGWと発表
7	看護における法的側面	講義	
8	看護ケアの基本的役割	講義	コミュニケーションを中心にスキルについては方法論で学習
9	保健・医療・福祉システム　概念・サービス提供の場	講義・演習	GW
10	保健・医療・福祉システム　チーム・コーディネート・経済・評価	講義	
11	看護ケアのマネジメント　病院組織とリーダーシップ	講義	医療安全と詳細なマネジメントは看護の統合と実践
12	災害看護　必要性　災害の定義・分類・災害拠点病院・法律	講義	具体的内容やケアは看護の統合と実践
13	国際看護　SDGsとは　北九州市の取り組み	演習	講義・GW
14	国際看護　健康問題と日本の実施する国際協力	講義	講義・発表
15	まとめ　これからの看護の課題と展望	講義	

受講上の注意	事前にDVD等を視聴する、事前課題をして具体的な内容をグループワークするという方法や講義時のリフレクションも重視するため、積極的な講義への参加を期待します。	**参考文献**	DVD：国際看護・災害看護シリーズ テキスト：国民衛生の動向
使用するテキスト	テキスト：ナーシング・グラフィカ　基礎看護学①　看護学概論　メディカ出版 よくわかる看護職の倫理綱領（照林社）・看護関係法令（医学書院）・看護覚え書（現代社） 資料配布　系統看護学講座　専門分野　看護学概論　基礎看護学①　医学書院		
評価方法	学科試験（70%）・事前課題（10%） グループワークや発表会時の参加状況（20%）　総合的に評価		

科目名	看護理論と看護研究の基礎	開講時期	1年次後期	講義担当者	原田美和子
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

看護理論については、事前に理論家のDVDを視聴しどのような人であるかという、その理論家の生きてきた背景等を学んでおくことからの講義となる。また看護研究の基礎に関しては、なぜと疑問や課題をもつことから始めるため、課題学習をして講義に臨んでください。

科目のねらい

看護理論は看護学のメタパラダイムを構成する4つの主要概念である人間・環境・健康・看護を記述し、関連づけてモデルに現し、説明している看護理論家の看護を学ぶ。本授業では専門職として看護を探求し、保健医療福祉チーム内で役割を発揮するために必要な能力について考える。また、看護職者の倫理、保健・医療・福祉における看護、現代における看護の動向について学び、継続教育へつなげる。さらに、看護研究の基礎について学び、看護研究の意義と方法について理解する。

授業目標

1. 現代看護の現状や課題について学び、看護の位置づけや理論について理解する。
2. 看護におけるサービスを考え、広がる看護活動について理解する。
3. 職業倫理、看護倫理を理解し、看護職者の責任について理解する。
4. 看護研究の意義と方法について理解する。

DPとの関連	DPの考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）がとれるようになるためには、科学的根拠に基づいた実践力へと結びつけていく力が重要になり、専門職業人として探究する力（成長）を備えた看護師への育成と関連させて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護理論とは	講義	
2	看護理論の分類と変遷	講義	理論の考え方を歴史的背景とともに考える
3	さまざまな看護理論　　フローレンス・ナイチンゲール	GW	・看護理論家の説明 ・各理論家の看護理論の説明 ・担当の理論家の理論にあて　　はめ看護を考える
4	ヴァージニア・ヘンダーソン/ドロセア・E・オレム/ジーン・ワトソン		
5	ベティ・ニューマン/カリスタ・ロイ/ジョイス・トラベルビー		
6	各理論でケースを考る	発表会	各グループのまとめ
7			
8	看護研究とは	講義	
9	文献の探し方・検討の方法	講義・演習・GW	・看護研究に関する相談等は、口頭やレスポンスカードで受け付け、次回の授業内で回答する。 ・提示した課題は必ず行い、授業は主体的な態度で臨むことで3年次の看護研究への継続姿勢を身につけられるようにする。
10	文献検索の実際		
11	研究デザインと研究方法		
12	データ収集・分析とは		
13	研究成果をまとめる、発表するには		
14	具体的研究の進め方とは		
15	まとめ	講義	
受講上の注意		参考文献	DVD（看護理論）、実践に活かす看護理論19（サイオ出版）、やさしく学ぶ看護理論（日総研出版）

使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学①看護学概論　基礎看護学④看護研究　メディカ出版 参考書：看護者の倫理綱領（照林社）・資料配布 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　看護学概論（医学書院）
評価方法	試験、学習課題、レスポンスカードなど

科目名	基礎看護技術Ⅰ	開講時期	1年次前期	講義担当者	財津　理枝、野村美由紀 丸茂ひろみ、中村まり子
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

看護学概論の「看護とはなにか」や「看護の対象としての人間」について同時期に学習しながら、看護における看護技術の中でも基本技術についての理解を深めていきます。

科目のねらい

看護および看護技術とはなにかと、看護における基本技術について学びます。コミュニケーション技術は良好な援助関係を形成する上で必要であること、対象が人間であることを理解していきます。また、患者の安全・安楽を守る技術として、快適な療養環境の整備と感染防止対策について学び、基本的な技術の習得を目指します。

授業目標

1. 援助関係を形成するうえで必要なコミュニケーションの基本技術を理解できる。
2. 患者の安全・安楽を守る基本技術である快適な療養環境の整備と感染防止対策について理解できる。

DPとの関連

基礎看護技術Ⅰでは、看護に共通する基本技術について理解できるようする。援助関係を構築できるようなコミュニケーション技術の基本と、安全・安楽を守る技術として療養環境と感染防止対策について医療安全の視点で理解する。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護技術とはなにか	講義	
2	【コミュニケーション】コミュニケーションの構造とプロセス	講義	
3	【コミュニケーション】コミュニケーション技法	講義	
4	【環境調整】環境調整の意義、療養環境の調整と整備	講義	快適な環境をつくる技術
5	【環境調整】環境調整技術に伴うリスクと安全	講義	快適な環境をつくる技術
6	【環境調整】環境を整える技術の実際①	演習	病床を整える援助
7	【環境調整】環境を整える技術の実際②	演習	ベッドメーキング
8	【環境調整】環境を整える技術の実際③	演習	臥床患者のリネン交換
9	【環境調整】環境を整える技術の実際④	演習	臥床患者のリネン交換
10	【環境調整】療養環境のアセスメントと実際①	演習・GW	事例環境からの アセスメント
11	【環境調整】療養環境のアセスメントと実際②	演習・GW	GW発表とリフレクション
12	【感染予防技術】感染予防の意義	講義	
13	【感染予防技術】標準予防策と感染経路別予防策	講義・演習	手指衛生
14	【感染予防技術】感染性廃棄物の取扱い	講義	
15	【感染予防技術】標準予防策・個人防護具の着脱の実際	演習	

受講上の注意	演習では実習室オリエンテーションを踏まえ、身だしなみを整え、言葉遣いなども実習を想定して実施する。	**参考文献**	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学　③基礎看護技術、看護の統合と実践　②医療安全、健康支援と社会保障　④看護をめぐる法と制度　メディカ出版 看護技術プラクティス（学研）		
評価方法	試験、課題レポート、演習、GW発表と参加など総合的に評価		

科目名	基礎看護技術Ⅱ	開講時期	1年次通年	講義担当者	丸茂ひろみ・中村まり子 中野真梨子
		単位数	2		
		時間数	60時間（30回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

日常生活援助の種類や方法についての理解を深めるために、同時期に履修している人体の構造と機能の「解剖学」「生理学」の基礎的知識を活用する。

科目のねらい

人間にとっての「活動と休息」「清潔」「食事」「排泄」の意義や生理的なメカニズムを理解し、援助の種類と方法を学ぶ。日常生活とそのニーズ、自立困難な対象への援助方法、安全安楽な技術提供の重要性を理解し、基本的な技術の習得を目指す。

授業目標

1. 健康的な日常生活を促進するための援助について理解できる。
2. 健康生活を送るために必要な援助の方法を習得する。

DPとの関連

日常生活の理解と健康生活を送るために必要な援助について理解し、基本的な技術については習得できなければなりません。個人の生活習慣やニーズ・価値観、障害の種類、セルフケア能力のアセスメントも必要です。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）に関連づけられていることを念頭に授業を行っていきます。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	【活動と休息】活動と運動の意義とアセスメント	講義	安楽とは　姿勢と体位
2	【活動と休息】体位変換、移乗・移送	講義	生活姿勢と 抗重力メカニズムの関係
3～6	【活動と休息】体位変換、移乗・移送	演習	ボディメカニクス、体位変換、車椅子移動・移送、ストレッチャー移送
7	【活動と休息】休息と睡眠	講義	
8	【清潔・衣生活】清潔と衣生活の意義とアセスメント	講義	
9・10	【清潔・衣生活】寝衣交換	講義・演習	持続静脈内点滴を実施していない臥床患者の寝衣交換
11・12	【清潔・衣生活】入浴・シャワー浴	講義	
13・14・15	【清潔・衣生活】清拭	講義・演習	臥床患者の清拭
16・17	【清潔・衣生活】足浴・手浴	講義・演習	臥床・座位での足浴・手浴
18・19	【清潔・衣生活】洗髪	講義・演習	臥床患者の洗髪
20・21	【清潔・衣生活】口腔ケア	講義・（演習）	（意識障害のない患者の口腔ケア）
22・23	【清潔・衣生活】陰部の保清	講義・演習	陰部モデルを活用
24	【食事】食事・栄養の意義と基礎知識	講義	
25	【食事】食事と栄養のアセスメント	講義	
26	【食事】食事介助の実際	（演習）	（嚥下障害の患者を除く食事介助）
27	【排泄】排尿・排便の意義と基礎知識	講義	
28	【排泄】排尿・排便障害の種類	講義	
29・30	【排泄】床上排泄とおむつを用いた援助の実際	演習	臥床排泄、ポータブルトイレ、オムツ
受講上の注意	援助を受ける対象の心理の理解のために、患者役体験を行います。プライバシーや羞恥心への配慮をし、安全に演習が実施できるように講義を受けて演習に臨むようにしましょう。	**参考文献**	系統看護学講座 専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学　③基礎看護技術　メディカ出版 看護技術プラクティス　学研		
評価方法	試験、授業参加状況、課題レポートなど総合的に評価		

科目名	基礎看護技術Ⅲ	開講時期	1年次前期	講義担当者	丸茂ひろみ 幸田　鳴美
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

同時期に履修している人体の構造と機能の解剖学、生理学Ⅰの生命の恒常性についてと健康支援と社会保障制度の情報と医療の内容をよく理解しておきましょう。

科目のねらい

ヘルスアセスメントの力を身に付ける意義を理解し、正確な身体計測およびバイタルサイン測定の方法を習得する。看護の役割を果たすためには基本的な知識および観察力の重要性についても意識できるようにする。また、正しい記録と報告の方法、さらには情報管理についても理解を深め、臨地実習につなげる。

授業目標

1. 測定の意義・目的について理解する。
2. バイタルサインの基礎的知識、測定方法を習得する。
3. バイタルサインの測定結果の解釈と記録・報告方法を理解する。
4. 体温調節と罨法の実際について理解する。

DPとの関連

看護師にとって欠かせない技術であるバイタルサイン測定は、人体の機能と構造の理解やコミュニケーション能力が重要であることを意識したうえで、正確に実施できなければなりません。看護の役割が理解できれば、技術習得に向けて積極的に取り組んでいけると考えます。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）、チームで働く力（協働）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	ヘルスアセスメントと看護の役割	講義	
2	身体計測の意義と方法	講義	
3	身体計測の実際	演習	身長、体重、胸囲、腹囲測定
4	バイタルサイン測定　①観察とは	講義	
5	バイタルサイン測定　②体温	講義	
6	バイタルサイン測定　③呼吸	講義	
7	バイタルサイン測定　④脈拍	講義	
8	バイタルサイン測定　⑤血圧	講義	
9・10	バイタルサイン測定の実際①	演習	体温、脈拍、呼吸、血圧測定
11・12	バイタルサイン測定の実際②	演習	体温、脈拍、呼吸、血圧測定
13	体温を調整する技術	講義	
14	体温を調整する技術の実際　罨法	演習	温罨法・冷罨法
15	看護記録と報告	講義	

受講上の注意	測定結果の解釈と記録・報告方法については、臨地実習で実践できるように積極的に演習に取り組んで下さい。 罨法については、安全に配慮して演習できるように真剣に取り組んで下さい。	**参考文献**	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学　②ヘルスアセスメント　③基礎看護技術　メディカ出版 看護技術プラクティス　学研		
評価方法	試験、授業参加状況・課題レポートなどで総合的に評価		

科目名	基礎看護技術Ⅳ	開講時期	1年次通年	講義担当者	野村美由紀 幸田　鳴美
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

基礎分野、人体の機能と構造の解剖学・生理学、看護学概論、看護理論と看護研究の基礎など関連する学習は多岐にわたります。復習しておきましょう。

科目のねらい

問題解決思考、クリティカルシンキングを基盤として行う一連の看護過程は、看護専門職として責任をもって看護を行う上で有用なツールであることを、すなわち看護過程を学習する意義を見出せるようにする。対象理解と個別的な看護実践の重要性について理解できるようにする。

授業目標

1. 看護過程の意義・構成要素と一連の流れを理解できる。
2. 看護過程におけるクリティカルシンキングを理解できる。
3. 基本的な実習記録の方法とその管理が理解できる。

DPとの関連

看護過程の展開は看護実践のための方法論であること、そして基礎を学習する意義を理解しておかなければなりません。看護過程を理解することで、看護を学ぶこと、そして臨地実習への期待と意欲を高められると考えます。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、前に踏み出す力（アクション）、チームで働く力（協働）、探究する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護過程の5つの要素、歴史と基盤となる思考過程	講義	
2	事例を用いた記録方法、記録作成と管理	講義	記録用紙の記入方法と管理
3	看護理論とアセスメントの枠組み	講義	ゴードンの機能的健康パターンアセスメントガイド
4・5・6	情報収集の方法と情報の整理①②③	講義・GW	
7・8	情報の分析・統合①②	講義・GW	
9	患者の全体像	講義	
10	看護診断と優先順位の決定	講義	看護診断ハンドブックの使い方
11・12	目標設定と計画の立案①②	講義	
13	事例を用いた記録方法	講義	
14	事例を用いた一連の看護過程の実際　①	講義・GW	
15	事例を用いた一連の看護過程の実際　②　まとめ	講義・GW	
受講上の注意	事例を用いた記録の実際では、実習で使用する用紙を活用して記録します。情報の管理については実習記録と同様に取り扱いますので注意しましょう。	**参考文献**	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ （医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学　①看護学概論②ヘルスアセスメント③基礎看護技術 メディカ出版 看護診断ハンドブック　第11版　ゴードン博士の看護診断アセスメント指針		
評価方法	GW・発表・課題・レポート、試験などを含め総合的に評価		

科目名	地域・在宅看護論概論Ⅰ（地域で支え合う暮らしを考える）	開講時期	1年次前期	講義担当者	原田美和子・幸田 鳴美 西　誠一・竹本祐子他
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

自身が暮らす「地域」や地域の活動に日ごろから興味をもち、生活体験や考えと共有できるように意識しましょう。

科目のねらい	授業目標
地域で暮らす人の生活を知り、「地域」の社会資源やその活用状況を評価し、地域包括ケアシステムの一員である看護師としての役割を考える。また、自助。互助の観点から、「ボランティア活動」をテーマに、その活動の意義や活動との繋がる方法を学ぶ。	1.「地域」や地域で生活する人々のニードが理解 できる。 2. 地域包括ケアシステムの中で、自助を支える健康支援が理解できる。 3. 自ら互助（ボランティア活動）に 参加し、互助組織を理解する。

DPとの関連	1年次前期の開講する授業です。主にグループワークやディスカッションで学んでいきます。施設医療から在宅医療へ社会背景が変化する中で、在宅という「暮らしの場」がある「地域」を様々な視点で評価し、課題を見出し自らかかわり、活動が行えることで「地域」は暮らしやすい環境となります。ディプロマポリシー1.関係を築く力、2.考え抜く力、3.前に踏み出す力、4.チームで働く力、5.探究する力に関連する構成にしました。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 科目ガイダンス、「地域」「在宅」の概念 1）看護の対象と場の広がりとニード 対象の拡大 療養の場の拡大 これからの看護師に期待されるもの	講義・演習	
2	2.「生活」支援 1）「生活」と「暮らし」 2）地域包括ケアシステムにおける 「自助・互助・共助・公助」	講義・演習	
3	3.「地域」とボランティア活動 1）「地域」とは	講義	
4	2）「地域」を理解する	オリエンテーション	
5	「地域踏査」演習 ①地域で暮らす人の生活の実際を知る ②その地域の社会資源と資源評価 ③その地域の互助（ボランティア活動）の実際を知る。	GW	
6			
7			
8			
9			
10			
11	3）資料作成	GW	
12			
13	4）発表会		
14			
15	まとめ	講義	レポート

受講上の注意		参考文献	系統看護学講座　専門分野 地域・在宅看護論　（医学書院） 三訂　地域看護学　津村智恵子（中央法規）

使用するテキスト	ナーシンググラフィカ　地域療養を支えるケア（メディカ出版） [暮らしの保健室]ガイドブック「相談／学び／安心／交流／連携／育成」の場　日本看護協会
評価方法	グループ評価：発表内容・発表資料(60%) 個人評価　　：授業・GW参加状況・レポート(40%)　以上、ルーブリック評価

科目名	成人看護学概論	開講時期	1年次前期	講義担当者	野村美由紀
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

心理学（成人の発達段階）、基礎看護学概論（WHO定義、ヘルスプロモーション）の科目を各自で復習し活用できるようにして下さい。

科目のねらい

成人看護学概論が対象とする「成人」とは、身体的および心理・社会的に成熟した人、すなわち「大人」である。そして、成人期は青年期、壮年期、中年期がありライフサイクルの中で最も長く、ライフスタイルや職業などに影響を受けて生活や健康観は多様である。そこで、成人期に見られる健康状態や健康問題を知り、健康な生活を育むための看護アプローチについて学ぶ。

授業目標

1. 成人の各期にある人の身体的・心理的・社会的な特徴と発達課題が理解できる。
2. 成人期にある人の生活や健康観の多様性を理解できる。
3. 成人期の健康問題を知り、看護アプローチの基本が理解できる。

DPとの関連

成人看護学概論は1年前期に開講され、15時間8コマの授業です。成人期にみられる発達課題や健康問題を学び、健康な生活を育むための看護アプローチ方法を通し、ディプロマ・ポリシー(DP)の関係を築く力(倫理)、前に踏み出す力(アクション)、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけて授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	成人期の発達段階・発達課題の特徴	講義・GW	エリクソン・ハヴィガーストを用いて
2	成人期にある人の生活と健康観の多様性の理解	講義	
3	成人期にみられる健康障害	講義・GW	健康障害が社会的影響を受けることを考える
4	生活ストレスと健康障害のストレスマネジメント	講義	ストレス・危機介入
5	成人への看護アプローチの基本	講義・GW	成人期の学習の特徴を知る
6	成人期にある人の生活習慣に関連する健康障害とそのアプローチ	講義	自己効力感・行動変容
7	健康生活を育む看護	講義	
8	成人の健康レベルに応じた看護	講義・GW	成人の特徴、発達課題から看護を考える
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

受講上の注意	科目のねらいを理解して受講して下さい	**参考文献**	
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　成人看護学①　成人看護学概論		
評価方法	試験、授業参加状況、課題レポートなどで総合的に評価		

科目名	老年看護学概論	開講時期	1年次前期	講義担当者	中村まり子
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

看護学概論の「看護とはなにか」や成人看護学概論の「成人期の発達段階・発達課題」を学び、わが国の超高齢社会に至るまでの経過を調べ、高齢者理解や高齢者のイメージがプラスに高まる学習を深めていきます。

科目のねらい

高齢者の生きがいや生活の実際を知り、高齢者疑似体験や元気高齢者のライフヒストリーをとおし、高齢者の特徴と健康生活を学んでいきます。また、高齢社会の現状や倫理的な問題の中から、高齢者の医療や福祉について考え、老年看護の役割や支援のあり方を学ぶ。

授業目標

1. ライフサイクルにおける老年期の特徴や加齢に伴う心身の変化を理解できる。
2. 多様な生活の場を整える継続性のある支援が理解できる。
3. 高齢者を取り巻く社会や生活の課題から老年看護の役割を理解できる。

DPとの関連

老年看護学概論では、高齢者を理解するための基礎を学び、多様な生活の場で暮らし、適応するための生きる要素を考えていきます。また、加齢の過程は多様で個別性が高いことを理解するために、元気高齢者のライフヒストリーの聴取や高齢者疑似体験をとおし、高齢者の人生を理解することの意味を考えていきます。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）、前に踏み出す力（アクション）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	高齢者とは　～高齢者のイメージ～	講義・GW	事前学習、私の夢年表①
2	加齢と変化　　～老年期と発達課題～	講義	高齢者疑似体験オリエンテーション
3	高齢者疑似体験	演習	在宅実習室にて演習
4	高齢者にとっての健康とは	講義・GW	高齢者体験からの学び
5	高齢者とQOL　～高齢者のいきがい～	講義	ﾗｲﾌﾋｽﾄﾘｰ聴取(事前課題)
6	人生とは　～若者へのメッセージ～	講義・GW	元気高齢者とのかかわり
7	高齢社会の現状と高齢者の生活	講義・GW	高齢者の生活を考える
8	超高齢社会における保健医療福祉の動向	講義	事前学習、国民衛生の動向
9	高齢者を支える制度の全体像	講義	事前学習、介護保険ｻｰﾋﾞｽ
10	高齢者を支える社会資源とサービス	講義・GW	私の夢年表②
11	地域包括ケアシステムの現状	講義	事例紹介
12	在宅療養を支える看護活動	講義	事前学習（動画視聴）
13	療養の場の移行期における支援	講義	事例紹介
14	介護保健施設、地域密着型サービス、ディサービス・ディケア	講義・GW	
15	老年看護学実践に向けての課題	講義	

受講上の注意	事前学習は、その都度提示します。専門用語については予め調べ学習準備をして下さい。課題の提出は指定の日時に必ず提出をして下さい。グループワークを伴うことが多いため、グループワークの目的を意識し、積極的に参加をして下さい。	**参考文献**	系統看護学講座 専門分野Ⅱ　老年看護学 （医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　老年看護学①高齢者の健康と障害 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）		
評価方法	事前課題学習、授業やグループワークの参加状況（高齢者疑似体験、ライフヒストリー聴取、私の夢年表）、試験などで総合的に評価		

科目名	小児看護学概論	開講時期	1年次後期	講義担当者	原田美和子
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	看護師実務経験者

事前学習内容

日常生活の中で子どもに興味をもち観察することを通し、授業で学ぶ知識と関連づけ子どもの成長発達等の理解を深めていく。

科目のねらい

子どもと家族を尊重した看護を実践するための基礎的知識を身につける。視聴覚教材をもとに子どもの各期の成長発達と特徴を理解する。さらにこの科目では、グループワークやロールプレイを通して、子どもと家族を取り巻く社会情勢や環境、子どもの権利、保健統計等について討論する。そして子どもと家族を多方面的に捉え、子どもと家族の安寧を保つための看護について考え、学生個々の意見をまとめ、方法論につなげることを目指す。

授業目標

1．子どもの各発達段階の成長発達と特徴を理解できる。
2．子どもと家族を取り巻く社会、環境、保健の動向について理解できる。

DPとの関連

小児看護学概論は1年後期に開講され30時間15コマの授業です。講義・演習での個人・グループワークを通して、子どもの成長発達等の理解を深めていきます。
ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	子どもとは①	講義　演習	
2	小児看護の対象と子どもの権利①	講義	
3	子どもの権利②	講義　DVD	レポート
4	小児看護の理論	講義	
5	子どもの成長発達	講義　DVD	
6	新生児期の子どもの成長発達と看護	講義　DVD	ワークシート
7	乳児期の子どもの成長発達と看護	講義	小テスト　ワークシート
8	幼児期の成長発達と看護	講義　DVD	小テスト　ワークシート
9	学童・思春期の子どもの成長発達と看護	講義	小テスト　ワークシート
10	子どもの成長と発達	講義	小テスト　ワークシート
11		講義 GW 発表	
12			
13			
14	子どもを取り巻く環境　（健康増進のための社会制度）	講義	・講義で得た基礎的知識をもとに子どもと家族を尊重した援助について考え、学生個々の意見をまとめる。
15	子どもを取り巻く環境　（マルトリートメント・子ども虐待）	講義　DVD	

受講上の注意	・視聴覚教材をもとに子どもの成長発達、特徴及び子どもと家族を取り巻く環境について理解する。 ・学習相談は口頭やレスポンスカードで受付、次回の授業内で回答する。	**評価方法**	終講試験70点 レポート 5点 ワークシート25点 （授業出席2/3以上）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　（メディカ出版）		
参考文献	小児看護学　第8版　日総研出版 小児看護学概論　子どもと家族に寄り添う援助　南江堂		

科目名	母性看護学概論	開講時期	1年次後期	講義担当者	大島　理恵
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師・助産師実務経験者

事前学習内容

母性看護の対象は、妊産褥婦とその子どものみならず、将来子どもを産み育てる女性、およびその役目を果たした女性、およびそのパートナーとしての男性、子どもを育てる家族、、地域社会と多岐にわたります。母性看護の役割拡大をふまえ、看護実践するうえで必要な知識をリプロダクティブヘルス／ライツの概念に基づき学ぶため、自分自身や身近な人たちを想起しながら受講しましょう。

科目のねらい

この授業では、母性看護を実践するうえでの考え方や方向性を理解するために、母性看護の基盤となる概念を学びます。また、母性を取り巻く社会の現状や母性看護の対象を理解し、次世代の健全育成のための看護を学びます。

授業目標

1.リプロダクティブヘルス／ライツに関する概念が理解できる。
2.女性のライフサイクルにおける特徴と自己決定する権利、またその支援について学ぶ。
3.女性の生涯にわたる身体変化と健康の確立に関わる看護を学ぶ。

DPとの関連

母性看護学概論は1年後期に開講され30時間15回の講義です。講義・演習での個人・グループワークを通して、女性の一生を通じた母性看護の概念と看護に必要な知識の理解を深めていきます。
ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に関連づけられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	リプロダクティブヘルス／ライツに関する概念 生涯を通じた女性の健康支援とは	講義	
2	リプロダクティブヘルス／ライツに関する世界・日本の動向　統計、法制度　母体保護法	講義	
3	リプロダクティブヘルス／ライツに関する倫理 自己決定の尊重　人工妊娠中絶	講義	
4	生殖補助医療　出生前診断	講義	
5	生殖に関する生理　性周期（初経・月経）、性行動、性反応、受精・着床	講義	
6	リプロダクティブヘルス／ライツに関する看護 DV防止法　性暴力被害者支援	講義	
7	リプロダクティブヘルス／ライツに関する看護 虐待防止に関する法律　女性の就労	講義	
8	思春期・成熟期女性の健康課題1 第二次性徴　性意識・性行動の発達	講義	
9	思春期・成熟期女性の健康課題2　家族計画　受胎調節	講義	
10	思春期・成熟期女性の健康課題3 月経異常　月経随伴症状	講義	
11	思春期・成熟期女性の健康課題4 自分の健康問題を考えてみよう　第二次性徴　月経周期	講義・演習	
12	思春期・成熟期女性の健康課題5 性感染症　不妊症　女性生殖器疾患	講義	
13	更年期・老年期女性の健康課題1 ホルモンの変化と検査・治療　更年期症状	講義	
14	更年期・老年期女性の健康課題2 骨粗鬆症　閉経　骨盤臓器脱　尿失禁　萎縮性膣炎　外陰炎	講義	
15	まとめ　女性のライフサイクル各期の特徴とは	講義	

受講上の注意	・女性としてのライフサイクルを自分や身近な家族などイメージしながら考えてみましょう。 ・倫理的配慮の必要な内容が多い講義です。話しにくい内容もあると思いますが、看護師としての専門職意識を育んでいきましょう。	**参考文献**	系統看護学講座 母性看護学① 母性看護学概論 母性看護学② 母性看護学各論
使用するテキスト	ナーシンググラフィカ　母性看護学①概論・リプロダクティブヘルス		
評価方法	試験、授業参加状況、課題提出状況などで総合的に評価		

科目名	精神看護学概論	開講時期	1年次後期	講義担当者	財津　理枝
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

講義時間数として限られた時間での関わりとなるため、歴史や社会が障害者にどのような取り組みをされてきたことなどについては事前学習に重点を置いて準備をしていただきます。

科目のねらい

現代社会における精神保健や精神医療・精神看護のニーズの高まりを把握し、こころを健康に保てるためには、疾患との関係、ライフサイクルやライフイベント、多くの結びつきを考えていく内容である。生きにくさを理解するためにも、歴史的な変遷から現代の施策を学ぶことで精神看護学の課題を実践する者としての姿勢を高める。また看護専門職としてだけではなく、人としての倫理観や人権擁護についても考える。

授業目標

1. 精神の健康の概念や精神看護学の基本的な考え方について理解できる。
2. 精神の健康に関する普及啓発や精神障害者に対するスティグマと社会の関わりを学ぶ。
3. 精神保健医療福祉の歴史や変遷から精神看護の必要性が理解できる。
4. いつの時代でも重要になる倫理観や人権擁護について意識的に考える姿勢を身につける。

DPとの関連

この講義は1年後期の受講時期となるため、看護学概論や他の看護学とのつながりや基礎分野で受講した内容と関係を築く力（倫理）、人権擁護などについては学生各自がしっかり考え抜く力（シンキング）、そして社会参加としても前に踏みだす力（アクション）が起こせるよう姿勢が身につくことと関連づけて構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	こころの健康とは　障害のとらえ方	講義	ストレスとの関連　身近なことから
2	人格の発達と情緒体験	講義	メンタルヘルスが重要視される経緯を含む
3	現代社会とこころ	講義	自殺や青年期の心理と合わせて
4	精神保健医療福祉の歴史と変遷　古代から中世	講義と演習	世界と日本との違いなど
5	精神保健医療福祉の歴史と変遷　近代から現代	講義と演習	治療や薬の発展を含む
6	看護の倫理と人権擁護　アドボカシーとは	講義と演習	スティグマや偏見とは
7	看護の倫理と人権擁護　援助者・非援助者の関係　権利擁護	講義と演習	地域生活との関係へ
8	まとめ	講義	まとめ
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

受講上の注意	講義内容で使用される、表現されている言葉やその意味が難しさを感じることがあることを考慮し、事前課題での言葉の意味などを調べてきてもらう学習準備が必要になります。	**参考文献**	系統看護学講座　専門分野Ⅱ第1巻　精神看護の基礎（医学書院）精神看護学Ⅰ精神保健・多職種のつながり　精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア改訂第2版（南江堂）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　精神看護学①情緒発達と精神看護の基本 精神看護学②精神障害と看護の実践		
評価方法	事前課題学習、GW、確認テスト、試験などで総合的に評価		